週刊 YEARBOOK

日録20世紀

1915
大正4年

8|25·9|1
平成10年8月25日·9月1日合併号発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第32号 通巻75号
¥560
講談社

「アラビアのロレンス」の実像

"命短し 恋せよ乙女"、「ゴンドラの唄」大ヒット
日本、中国に「21カ条要求」の火事場泥棒!
独Uボートが豪華客船「ルシタニア号」撃沈!

▲1918年、アカバでのロレンス（左）と米人従軍記者のローウェル・トマス。トマスはロレンスの伝記を書き、〝ロレンス神話〟を作りあげた。　CORBIS-BETTMANN／PPS

赤で記した地名は、ロレンスがおもに活躍した地。

▶一九一三年、世界的な考古学者、レナード・ウーリーのもとで研究に熱中していたローレンス（石板の左）。　オリオン・プレス

◎表紙　1917～18年頃、アカバ付近での撮影とされている。ロレンスは、いつも純白の衣装に身を包み、アラブ人とともに行動していた。
Popperfoto／ユニフォト・プレス

カイロの英国陸軍情報部に現れた一人の男

砂漠の〝無冠の帝王〟「アラビアのロレンス」の実像

▲ロレンスが撮影したアラブ軍。ロレンスはアラブ軍を率いてゲリラ戦を展開、トルコ軍をさんざん苦しめた。　Imperial War Museum／ユニフォト・プレス

第一次世界大戦時、アラブはドイツ側について参戦したオスマン・トルコの支配下にあった。トマス・エドワード・ロレンスは、英国陸軍の密命でアラブの叛乱軍と行動をともにした情報将校で、アラブの独立運動に献身した。「アラビアのロレンス」と呼ばれ、今世紀が生んだ最もカリスマチックで謎めいた人物の〝実像〟は――。

考古学者の卵から陸軍情報部へ転身

「毎日毎日、一日中オフィスに閉じこもって、情報のかけらを寄せ集めたり、記憶によって地形図の細部を描いたりしています」

一九一五年一月一五日、トマス・エドワード・ロレンス（二六）は、恩師のD・G・ホーガース博士（有名な考古学者で英国情報部の協力者）宛の手紙で、こう書き送っている。後に「アラブの無冠の帝王」などとたたえられた彼は、英国陸軍がエジプトのカイロに創設した情報部地図課員の陸軍中尉として、前年一九一四年の一二月に赴任したばかり。交戦国であるトルコの情報を収集する諜報エージェントが、彼の任務だった。

時はまさしくアラブ民族主義の高揚期で、彼の役割は重要だった。アラブはトルコからの独立を切望していた。ロレンスも「アラブ独立」に熱意を傾けた。

ロレンスがアラブに関心を持ったのは、オックスフォード大学在学中のこと。ホーガース博士のもとで、アラビア語と中東について学び、一九〇九年にはレバノ

ン、イスラエル、シリアを一一〇〇マイル（約一八〇〇キロ）にもわたって十字軍の城砦三六ヵ所を調査した。日陰でも四〇度を越す猛暑の中を、切り傷とマメだらけの足をひきずって一人で歩いた。シリアから母親にあてた手紙で、「これでイングランド人に戻るにはひと苦労するでしょう。ここでのぼくの暮らしぶりは、まるでアラブ人そのものです」とアラブへ傾斜する心を述懐している。

一九一六年六月、紅海沿岸のヘジャーズで、トルコに対するアラブの叛乱が起こる。メッカのシャリフ・フサインは、トルコ軍に勝利したらアラブの独立を軍事的に支援し保証するという約定を英国から取りつけ、連合軍側につくことを約束していたのだ。アラブ局に転属したロレンスは、諜報工作員としてのさまざまな活動に従事し、英国人としてアラブの叛乱をバックアップする立場に立った。

フサインの三男、ファイサル（当時・三二歳）にロレンスが初めて会ったのは、同年一〇月二三日のことである。ロレンスは自著の『知恵の七柱』に、「ファイサルこそが、私がこのアラビアまでさがしにきた男だ――彼こそアラブの叛乱に完全な栄光をもたらす指導者だ」と書いた。ファイサルと出会い、提携し、みずからアラビア人に扮し、ベドウィン族（遊牧民）の遊撃隊とともに砂漠で生活し、鉄道爆破などを行い、トルコ領内のアラブ独立運動を支援する。

一九一七年七月六日には、ロレンスの率いるアラビア人部隊が、トルコの要衝・アカバの奪取に成功する。そして、この年八月五日、ロレンスは少佐に昇進。その後もロレンスは軍事的劣勢の中で典型的なゲリラ戦術を展開。一九一八年九月一九日のメギドの戦いでは、パレスチナのトルコ軍を敗走させ、進撃の過程でダマスカス、ベイルート、アレッポを占領する。

▲1918年10月初め、ダマスカスに入ってまもなくの頃。ロレンス（右）が乗っているのは、ロールス・ロイスの「シルバー・ゴースト」。名車中の名車である。　Rolls-Royce Ltd／デジタルハウス

カイロの英国陸軍情報部に現れた一人の男

砂漠の〝無冠の帝王〟「アラビアのロレンス」の実像

しかし、シリアとレバノンの支配権はフランスにあるとして、アラブの独立承認の約束をはたさない英国政府にロレンスは失望する。一九二一年、ウィンストン・チャーチル植民相のもとにアラブ関係顧問となり、ファイサルを国王とするイラク王国の成立に努力したが、政府の帝国主義的中東政策を不満として、翌一九二二年辞任した。

作られた〝英雄物語〟で帝国主義の本質を隠蔽

ロレンスが砂漠で体験した作戦行動の膨大な記録は、数多くの伝記、論文で紹介され、映画、戯曲にもなった。映画「アラビアのロレンス」（一九六二年）は、「英雄」としてのロレンス伝説を世界に広めた。著名な政治家で、第二次大戦時「救国の英雄」と言われたチャーチルは、映画に寄せたメッセージで「思うに、彼は現代で最も偉大な人間の一人であった。（中略）彼の名は英文学に、戦史に、そしてアラビアの伝説の中に生きるだろう」とロレンスをたたえている。だが、ロレンスの実像については異説もある。

東洋英和女学院大学教授で、元「朝日新聞」カイロ特派員だった中近東研究家の牟田口義郎氏は、ロレンスが叛乱軍の指導者であったとする説は、まったくのでっちあげであると断言する。

「〝ロレンス英雄伝説〟は、アメリカ人の従軍記者のローウェル・トマスの創作したもので、トマスは『サイレント映画と講演会』を企画して大当たりをとった。これを見たロンドンの興行師が、英国に持ちこみ、現代版アラビアンナイトの物語となったのです」

ロレンスはアラビアで、英国軍人の任務を忠実に遂行し、アラブ人とともに約三年間、働き暮らした。しかし、彼はたんにダイナマイトの技術を教えた一介の情報将校にすぎず、「叛乱」の指導者、作戦指揮官などではない、というのがアラブ側の一般的な見方だ。

「つまり『アラビアのロレンス』の役割は、英国の帝国主義戦争政策の本質を隠蔽するところにあり、『叛乱の指導者』という架空のイメージを作ってこれを利用しなければならなかったということなのです」（前出・牟田口教授）

英国、フランスの権益と、「アラブの叛乱」を見る時に、「アラビアのロレンス」の評価は分かれて当然で、ロレンスは強大な力の中で運命を弄ばれた犠牲者とも言える。アラブを去り英国に戻ったロレンスは、孤独を保ちながら生きた。

一九三五年五月一三日、ボビントンからクラウズ・ヒルの自宅にバイクで戻る途中、事故を起こし、意識不明のまま六日後にロレンスは独身を通した生涯を終える。享年四六であった。

闘士としても超一流だったロレンス

デビッド・リーン監督の「アラビアのロレンス」の主役、ピーター・オトゥールは、ロレンスの遠縁にあたる。顔つきが似ているのは、そのためだろう。オトゥールは190センチの長身だったが、ロレンスは165センチで、足に比べて胴が長い。しかし肉体的には強靱であった。生涯にわたって戦傷が9度、航空事故は7度、骨折は子どもの時以来33ヵ所、ロレンスが短軀だったのは、足の骨折が原因とも言われている。さらに肋骨骨折は11回、マラリア、赤痢、チフスなどの熱帯病にかかったのは一度や二度ではない。それをおしての熱砂の中の行軍もいとわなかったというから、常軌を逸したタフさだった。

砂漠の闘士としても一流で、銃を片手に走っているラクダから飛び降り、再び飛び乗るという芸当も難なくやってのけた。また拳銃を持たせても百発百中、最前線でロレンスは何かに憑かれたように闘った。ロレンスはこの闘いを、エージェントがアラブ服を身にまとったら最後、「異国の劇場の舞台に立つ役者のように何ヵ月もの間、昼夜をわかたず、休演もなく、危ない賭けをつづけるのだ」（『知恵の七柱』）と述べている。

▲最高級バイクであるイギリス製の「ブラフ・シューペリア」にまたがるロレンス。このオートバイで、1935年5月13日、運命の事故に遭う。

▶一九一九年一月、パリのファイサル邸で。中央がファイサル。中列右から二番目がロレンス。ファイサルとの出会いが、ロレンスの進路を決めた。
ROGER-VIOLLET　ユニフォト・プレス

「命短し 恋せよ乙女……」——つかの間の大正ロマン
作曲・中山晋平、歌・松井須磨子のコンビで「ゴンドラの唄」大ヒット！

▲大正3年3月、帝劇での芸術座公演「復活」の舞台。カチューシャを演じる松井須磨子。

大正四年、松井須磨子が歌った「ゴンドラの唄」が、前年の「カチューシャの唄」に次いで大流行した。作曲者は、東京音楽学校を出たばかりの中山晋平。このヒットで松井はトップ女優の座を、中山はヒットメーカーの座を手にするが、二人は、その後、対照的な道をたどる。

夜汽車の中で作曲されたヒット曲「ゴンドラの唄」

大正四年四月一九日の早朝、母の葬儀を故郷の長野ですませ、帰京する夜行列車の中で、中山晋平（二八）は、五線紙とにらめっこをしていた。初日が二六日に迫った新劇劇団・芸術座公演「その前夜」（ツルゲーネフ原作）の劇中歌を作曲しなければならなかったのだ。音程が不確実な主演女優の松井須磨子（二八）の稽古の時間を計算すると、すでにタイムリミットに近かった。中山は、九時間かかる夜汽車の、それも薄暗いトイレの中で、名曲「ゴンドラの唄」を書きあげた。上野駅から人力車をとばし、中山が稽古場の島村抱月（四四）に譜面を手渡したのは、二〇日の午前七時すぎだった。

曲の完成がここまで遅れたのにはわけがあった。当時、東京音楽学校（現・東京芸術大学）を卒業したばかりで、東京の千束小学校で教員をしていた中山は、この仕事にあたって、ほとほと困りはてていた。中山は、前年に島村抱月演出・松井須磨子主演の公演「復活」（トルストイ作）の劇中歌「カチューシャの唄」で鮮烈なデビューを飾ったばかりだった。その中山に、島村は再度、劇中歌の作曲を依頼したのである。その頃、島村宅の書生だった中山にとって、本来、断れる筋ではなかった。それどころか、中山にとって、願ってもないチャンスでもあった。中山に自信がなかったわけではない。だが、涙をいっぱいにためた島村の長女・春子から、「もう、はやる歌を作らないで」と頼まれたことが大きなプレッシャーとなっていた。

恩師・坪内逍遥とともに、島村が手がけてきた新劇劇団・文芸協会は、島村と松井の「不倫」が表面化したため、分裂し、島村、松井らは新たに芸術座を結成していた。そして前年の大正三年三月、東京の帝国劇場の第三回公演で「カチューシャの唄」が使われ大ヒットする。「東京日日新聞」（現・「毎日新聞」）は、幕開きから三日目に「カチューシャの唄、満場の耳奪う」と書いた。

その後、「復活」は日本中で爆発的な人気を呼ぶ。三〇〇〇人収容の京都南座公演で、三日連続の満員札止めとなったのをはじめ、地方公演はすべて大成功。そして「カチューシャの唄」も、全国津々浦々で口ずさまれた。これまでの日本の歌にない新鮮さと哀愁に満ちたこの曲のレコードは、発売と同時に売り切れた。二万枚とも四万枚とも伝えられる空前の売れ行きだった。その後も増産され、最終的には二七万枚に達したのだった。

これを契機に、島村は芸術座の舞台には「劇中歌」を挿入することにした。

その中山に、春子は、「これ以上、須磨子さんの人気が出ると、お父さんはお母さんのところに帰ってこない。だから歌は作らないで」と泣いて訴えたのだ。

なかなか首を縦に振らない中山に対し、島村と松井がそろって頭を下げた。

恩師にそこまでされては、中山も引き受けざるをえなかった。島村から手渡された歌詞は、詩人・吉井勇（二八）の作で「命短し　恋せよ乙女　紅き唇　あせぬ間に」と始まっていた。中山にはピンとくるものがあった。母の死という傷心の中で、中山は哀切きわまりないメロディーを作りだした。だが、この「ゴンドラの唄」の新聞批評はかんばしいものではなかった。

「カチューシャで味を占めた芸術座が当てこんだものかもしれないが、須磨子の声がなっていないのと、節もカチューシャの唄よりもむずかしく（中略）、まず

▶「カチューシャの唄」の楽譜表紙。大正三年六月刊。「カチューシャ可愛や　別れのつらさ……」と、全国で歌われた。

中山富子／中山晋平記念館提供

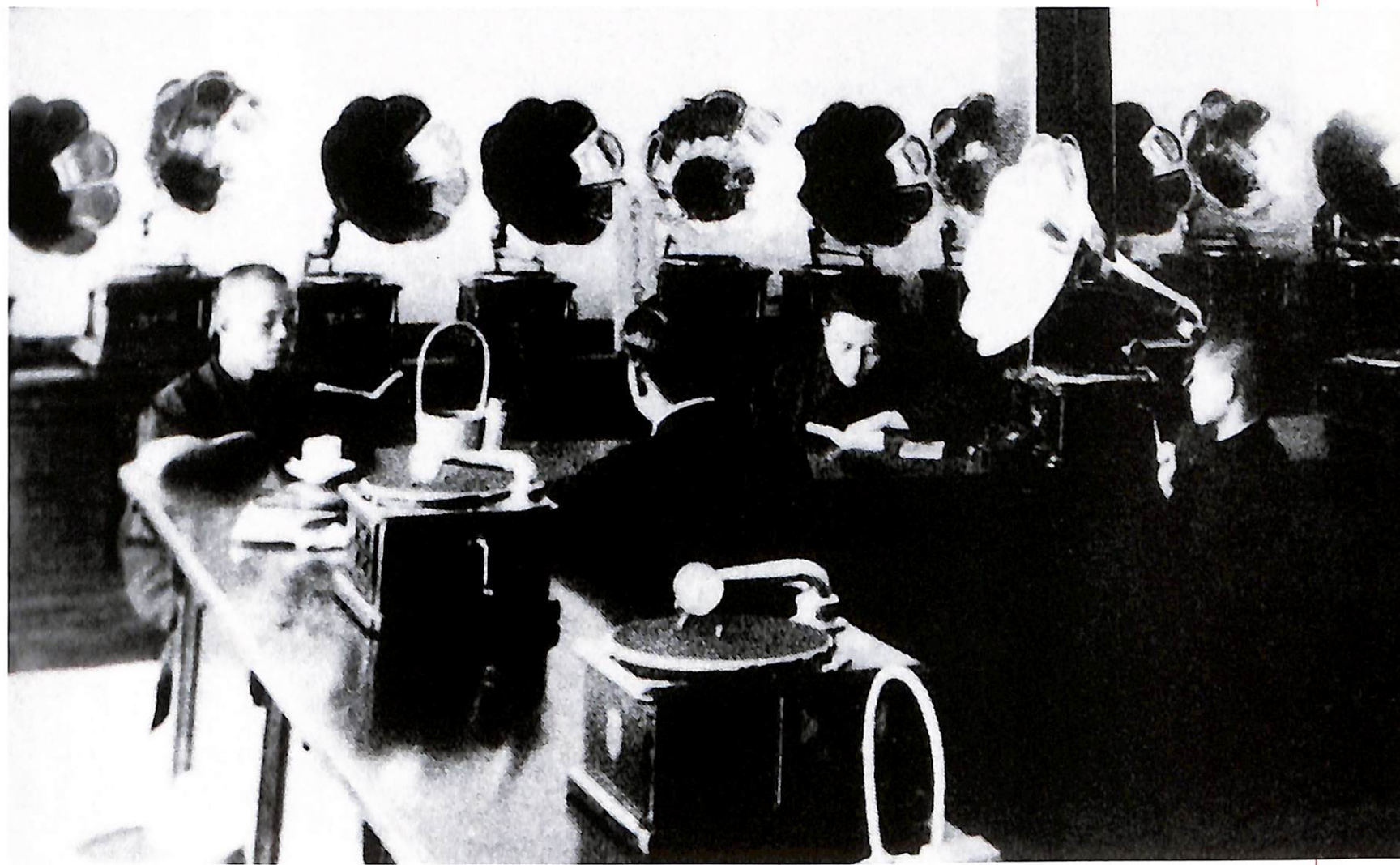
中山富子／中山晋平記念館提供

▲中山晋平。大正を代表する作曲家で、「カチューシャの唄」「ゴンドラの唄」をはじめ、生涯に3000曲を作曲。

中山富子／中山晋平記念館提供

▲「ゴンドラの唄」楽譜表紙。大正5年7月刊。「その前夜」の劇中歌。

▶大正期に入るとレコード界も活況を呈してきた。写真は大正博覧会の日蓄（現・日本コロムビア）の特別館。

「コロムビア50年史」

▲明治末から大正初期の頃の蓄音器店店頭風景。これまで蓄音器会社といえば日蓄1社だったが、大正に入って、三光堂、東京蓄音器などが設立された。「日本ビクター50年史」

以て流行になりそうもない」（「東京日日新聞」大正四年四月二九日）

松井須磨子の自殺と中山晋平の活躍ぶり

そうした酷評にもかかわらず、「ゴンドラの唄」は「カチューシャの唄」に続く大ヒットとなる。「カチューシャの唄」が大衆的な人気を得たのに対し、「ゴンドラの唄」は主としてインテリ層の人気を集めた。その秘密は、学校教育で浸透し始めていた唱歌調（軍歌とも共通する）だったことや、日常的な口語の歌詞で、哀愁と無常観をちりばめたことがインテリの琴線に触れたのである。後に「ゴンドラの唄」は、昭和二七年封切、黒澤明監督の東宝映画「生きる」の一シーンで再び蘇る。志村喬の演じる死期の迫った中年男性の切々たる歌声は、鮮烈な印象を与えた。

「松井須磨子の歌は、当時の録音技術の未熟さを割り引いても、うまいとは思えない。音程も悪い。しかしそれでもあれだけのヒットとなったのは、中山晋平の曲のおかげだろう。クラシックから童謡まで幅広さと器用さを持つ中山の曲が、つかの間の大正ロマンの時代に、人の心を的確につかんだのでしょう」

と言うのは、『うたのふるさと紀行』の著書もあるダーク・ダックスの「ゲタさん」こと喜早哲氏である。

松井は「カチューシャの唄」と「ゴンドラの唄」のヒットで、一躍トップ女優の座につく。そして「復活」は全国で四〇〇回以上の公演を重ねた。国内はもとより、台湾、朝鮮、満州（中国東北部）のほか、ロシアのウラジオストクにまで足をのばしたほどだ。

だが、大正七年一一月、同棲相手の島村がスペイン風邪をこじらせ急死した後を追って、松井は大正八年正月、後追い自殺をとげる。三二年の生涯だった。

一方、新進作曲家の中山は、「船頭小唄」（大正一〇年）、「波浮の港」（昭和三年）、「東京行進曲」（昭和四年）、と連続してヒットを飛ばす売れっ子作曲家となった。また、童謡作曲家としても活躍する。「てるてる坊主」（大正一〇年）、「しゃぼん玉」（大正一一年）、「兎のダンス」（大正一三年）、「証城寺の狸囃子」（大正一四年）など、子どもに親しまれた中山の童謡は数えきれない。

▶舞台「復活」の影響で、リボン式髪飾り「カチューシャどめ」が大流行。

女たちの肖像

矯風会の〝大黒柱〟矢島楫子 八二歳という高齢をおして廃娼運動に東奔西走の日々

稲葉真弓

矯風会と言えば明治、大正、昭和にわたって一世を風靡したキリスト教の婦人団体である。禁酒運動をもとに、一夫一婦制の確立、公娼制度の撤廃、婦人参政権運動、売春防止法の確立をめざしてきたが、この年の一二月二四日、会頭の矢島楫子（八二）らが「在外国売淫婦取締法制定」を議会に請願したのも、その地道な活動のひとつだった。この頃、矢島楫子は、高齢にもかかわらず東奔西走していた。前年の大正三年、二五年間つとめた女子学院の校長職を辞した彼女は、日本全国で講演をこなしたり、会の本拠地とすべく新しい事務所建設の計画にあたっていた。

彼女が禁酒運動に身を挺するようになったのは、不幸な結婚生活がきっかけだった。天保四年（一八三三）、熊本県の名家に六女として生まれ、明治の文豪、徳冨蘇峰・蘆花を甥に持つ彼女は、二五歳で生家近くの林七郎に嫁いだものの、夫は酒乱だった。三児をもうけ一〇年間耐えたが、心労のため半盲状態となり、ついに家出。その後五年間、姉の嫁ぎ先などを転々として明治五年上京。本名の「勝子」を捨て「楫子」と名乗る決意をしたのもこの時。みずから「楫」をとって生きようという選択だった。

東京では官吏の兄宅から教員伝習所にかよい、卒業後は小学校の教員となった。同時期、彼女の人生に大きな事件が起こった。妻子ある男性と愛し合い、ひそかに女の子を産んだのである。この経験が、後に洗礼を受け、男女の不平等に意識をひらく下敷きを作ったが、さらなる転機は、ミッション・スクール、新栄女学校校長のミス・ツルーとの出会いにあった。名教師だった楫子はミス・ツルーの要請で明治一一年同校教諭として赴任、一四年夏には、桜井女学校の校長、さらに二二年、女子学院校長となり後に矯風会の主要メンバーとなる久布白落実やガントレット・恒らを育てた。

婦人矯風会ができたのは、明治一九年。アメリカの禁酒運動家、レビット女史の講演を聞いた楫子らが「日本にも会を」と発足させたものだった。彼女の活躍は、以後、九二歳で亡くなるまでの四〇年の長きにわたる。日露戦争の際、戦場の兵士に送る「慰問袋」を始めたのも彼女である。

晩年は、会の宣伝のため海外への旅を開始。一回目は七四歳、最後の旅は八九歳！強靱な精神力と体力だが、大正一四年六月、おしまれつつ死去した。

毎日新聞社

▶矯風会の運動に生涯をささげた矢島楫子（左）。

勝者・敗者

〝夏の甲子園〟がスタート 決勝戦はエラーで決着 京都二中に優勝の栄冠！

阿部珠樹

羽織袴の紳士がマウンドに向かって歩き出した。手には、審判長から渡された白球が握られている。ぎこちなく右腕をまわし、そのボールを投じる。白球は捕手のミットに吸いこまれた。羽織の紳士、朝日新聞社社長の村山龍平（六五）は、満足そうに手を上げた。

この年、八月一八日、第一回の全国中等学校優勝野球大会はこうして始まった。場所は大阪・豊中グラウンド。今に続く「夏の甲子園」のスタートである。

大学を中心にした野球熱は明治後半から日本中をおおい、中等学校でも、各地でさまざまな大会が開かれるようになっていた。それを、全国レベルで大々的に開こうという試みが、この大会だった。新聞の拡販材料という意味合いがないでもなかったが、そこには盆休みでも帰郷できない地方出身の働き手たちに、野球で故郷を偲ばせてやりたいという配慮も含まれていた。

第一回大会に、全国から集まった出場校は一〇校。東海五県大会を連覇している三重の山田中学、後に大学野球で活躍する逸材をそろえた東京の早実の前評判が高かったが、八月二三日の決勝に駒を進めたのは京都二中と秋田中学。ともに下馬評にはあがらなかったチームだった。

特に秋田中学は、地方大会がなく、ほんの形式程度に二試合を消化して本大会出場をはたしたチームだったので、ほとんどお客さん扱いだった。しかし、山田中、早実を続けて破り、波に乗ったあたりは、いかにも若い中学生らしかった。

決勝戦は両チーム、エースの投げ合いで進む。秋田が七回表に先制すると、八回裏に京都が同点に追いつき、試合は延長戦に。そして延長一三回、決着はあっけなくつく。京都は落球で出塁した走者が二盗、続く打者が二塁にライナーを放つと秋田の野手が落球、あわてて一塁に送球すると、それを一塁手がファンブルし、二塁走者が一気に生還、これが決勝点となった。

エラーで決着がつくあたり、今の高校野球とそっくりで、「魔物」は甲子園だけでなく豊中にもいたことがよくわかる。

朝日新聞社

▲荒木京大総長から優勝旗を受ける京都二中・仲主将。

1月

「写真タイムス」

▼独艦隊、大敗（1月24日）北海のドッガーバンクで英艦隊と交戦。暗号を解読され、待ち伏せ攻撃を受けたもので、巡洋戦艦1隻を撃沈され、艦隊は母港に逃げ帰った。

Popperfoto／ユニフォト・プレス

▶「少年軍」第1回練兵式（1月7日）忠君愛国の精神と、健全な体力を養成するのが目的。日比谷公園に、尋常小学校4年以上17歳以下の男子が集合した。

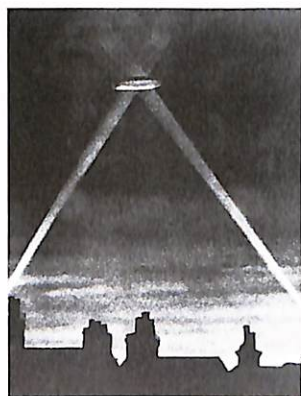
「写真タイムス」

▲元横綱常陸山、断髪（1月7日）前年引退、年寄出羽海を継いだ。現役時代は、梅ケ谷と大相撲の黄金時代を築いた。40歳。写真は、東京・本所に新築した部屋で、銀杏髷を手に感無量の常陸山。相撲界随一の大部屋を率い、大錦・栃木山・常ノ花の3横綱を育てた。

▶大阪・堂島川で出初式（1月6日）北河岸で毎年行われる年中行事のひとつ。式後、仕掛けた爆薬で燃え上がった櫓に、梯子から放水。明治44年に導入され、この頃、高層建築増加で需要が増した蒸気ポンプ十数台が、さかんな水流をあびせた。

「写真通信」

ユニフォト・プレス

▲米大陸横断電話が開通（1月25日）ベル社の子会社・アメリカ電話電信会社が、シカゴ経由でニューヨーク－サンフランシスコ間を接続。写真は1892年、ニューヨーク－シカゴ間回線開通式で通話する、電話の発明者・ベル。

毎日新聞社

▲ツェッペリン飛行船、英国爆撃（1月19日）午後8時30分頃、北部の諸都市を襲った。ヤーマス市で死者4人。以降、ドイツは3月にパリ、5月にロンドンを初空襲。特にロンドン空襲はこの年20回におよび、死者は551人に達した。

大正4年1月

1（金）●鉄道院、外国人用乗車券販売をJTBに委託。
2（土）●東京に「神田演芸館」開館。出し物は演芸全般。
3（日）●大阪―東京間初飛行をめざす民間飛行家・荻田常三郎ら二人が、試験飛行中に墜落死。
4（月）●大戦勃発による混乱を避けるため休止していたロンドン証券取引所、五ヵ月ぶりに再開。
5（火）●大相撲一月場所番付発表、東方に横綱不在。
6（水）●信濃鉄道（現・大糸線）、部分開通。
7（木）●中国、自国内の戦争区域廃止を日本に通告し、山東省からの日本軍撤退を要求。
8（金）●大雪により東京各地で一五時間の停電。
9（土）●東洋一の産出量を誇る北海道奥尻島の硫黄鉱山で爆発事故、死傷者多数。
10（日）●「裸仙人」の異名をとる長野県の水泳家が、名古屋で寒中水泳興行中に死亡。
11（月）●硝石満載の「安洋丸」、独通商破壊艦の襲撃を避けつつ、四ヵ月がかりでペルーから帰港。
12（火）●東京の中央線運賃引き上げに、沿線の町村長らが抗議。全国同一料金めざす鉄道院は拒否。
13（水）●ローマ付近に大地震、死者約三万人。
14（木）●畜産組合法公布。畜産の産業化めざす。
15（金）●伊・ルーマニア相互援助秘密協定成立。
16（土）●華やかな「お召し」に替わり、紬・絣に人気、縫い取り模様入りの高級品も多い、と新聞に。
17（日）●米国の上下両院協議会、排日移民法案を可決、大統領は署名拒否。
18（月）●日本、山東省のドイツ利権譲渡などの要求を中国に提出（「対華二十一ヵ条要求」）。
19（火）●独飛行船、初めて英本土を爆撃。
20（水）●永井荷風の『夏姿』、風俗乱すとして発禁に。
21（木）●露に収容中の同盟国捕虜が三五万人と新聞に。
22（金）●東京の地価は五年で四割下落、と新聞に。
23（土）●銘柄整理のため巻タバコ四種を廃止と新聞に。
24（日）●ドッガーバンク海戦。独が敗退し、制海権失う。
25（月）●米価調節令公布。米価低落防止をねらう。
26（火）●大審院、婚姻不履行に基づく賠償を、内縁の妻に初めて認める判決。
27（水）●公立学校職員の身分を法的に保証。
28（木）●米国議会、沿岸警備隊創設を決定。
29（金）●内地収容の独軍捕虜は四六二〇人と判明。
30（土）●南洋協会設立。「新領土」開発のための調査研究をめざす。
31（日）●陸軍航空のリーダー・徳川好敏大尉をかたって各所で飲み歩く男が出現、と新聞に。

ニュース・ファイル 1915

フォト＋日録で再現する365日

四日がかりではあったが、陸軍機がついに、所沢―大阪間の"大飛行"に成功した。大正天皇即位大典で日本中が沸き返り、三浦環はロンドンで「蝶々夫人」を演じ切ってスターへの道を歩き始める。欧州戦線の膠着をよそに日本は上げ潮、大戦景気が始まった。

◀大隈首相、レコードでアピール（3月2日）3月25日の総選挙に向け、自宅に録音技師と装置一式を運びこみ、45分間熱弁をふるった。題して「憲政に於ける世論の勢力」、3枚一組3円で発売され、人気は上々だった。

「写真通信」

▲貴族院議員団、南洋諸島を視察(2月13日)サイパン島など、前年、日本が占領した旧ドイツ領の島々を訪問。後にこの地域では、多くの日本人が開発に従事し、軍港も設けられた。

「写真タイムス」

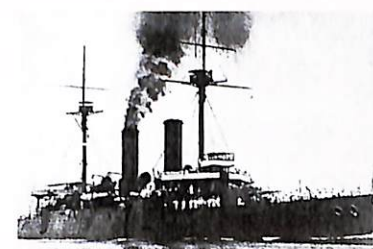
▲陸軍機、所沢—大阪間の大飛行(2月23日)2機のモーリス・ファルマン機が、1機は4日、1機は5日がかりで達成。実飛行時間は7時間前後だった。写真は神奈川県真鶴半島付近。

「写真タイムス」

The Burton Holmes Collection(UCLA)/デジタルハウス

▲パナマ太平洋博開幕(2月21日)サンフランシスコで12月24日まで実施。日本は庭園・金閣寺接待館などを建設、"排日"熱鎮静につとめた。写真は、照明に浮かぶシンボルタワー。

▶巡洋艦「浅間」、遭難(2月)独艦捜索中、メキシコ西岸で座礁、一時は沈没も伝えられ、国民をはらはらさせた。日本海海戦で活躍した軍艦だった。

◀ベルギーのための人形展(2月20日)前年末独軍に占領された同国のため、東京の三越呉服店で28日まで貴重・秘蔵の品を集めてバザーを開催した。

「写真タイムス」

▶中国・奉天で「満州氷上運動会」(2月21日)満鉄氷滑部主催。地区対抗制で、「大連軍」が優勝。写真は喜びの選手たち。大正12年、「全満スケート大会」に。

「写真通信」

大正4年2月

1(月)●英国で、全食料品の強力な統制が始まる。

2(火)●「対華二一ヵ条要求」で、日中間の交渉開始。

3(水)●台湾に公立中学校を設置。
●エジプト侵攻めざすトルコ、スエズ運河攻撃。

4(木)●独、英の北海封鎖に対抗し、潜水艦による英国封鎖を宣言。国籍を問わず、無警告で攻撃。

5(金)●五町歩規模の中農の農業収入は五〇〇~六〇〇円、半分以上は税金でなくなる、と新聞に。

6(土)●小豆島でオリーブの試験栽培が順調と新聞に。

7(日)●日本製鋼所が戦時景気で初配当、と新聞に。

8(月)●詩人・作家の長塚節没。三五歳。

9(火)●対露輸出契約が、大戦勃発以来すでに五〇〇〇万円、生産・輸送追いつかずと新聞に。

10(水)●米国、独潜水艦の無差別攻撃に抗議、米船攻撃は米国の中立に対する侵害とみなすと警告。

11(木)●在日中国人留学生二〇〇〇人、東京で、「二一ヵ条要求」への抗議大会開催。

12(金)●東京で、上野公園などの老杉に枯死続出、原因は煤煙らしい、と新聞に。

13(土)●稲田竜吉・井戸泰、ワイル氏病の病原体スピロヘータを発見。

14(日)●パリ派遣の日赤救護班、アストリア・ホテルに病院を設置して活動開始。

15(月)●吉田司家の異議で前月三一日から待ったをかけられていた鳳の横綱昇進が、ようやく実現。

16(火)●ベルギー公使館で、戦争の惨状訴える幻灯会。

17(水)●海運好況、雇船料は数ヵ月で二倍、と新聞に。

18(木)●ベルリンで来年開催予定の五輪、中止が決定。

19(金)●英仏艦隊、ダーダネルス海峡のトルコ軍砲台を海上から攻撃(2月中に大部分を破壊)。

20(土)●米、「二一ヵ条要求」中、中国政府機関への日本人招聘を求める第五号につき問い合わせ。

21(日)●サンフランシスコでパナマ太平洋万国博覧会。

22(月)●新潟県の大清水銅山宿舎に雪崩、三六人死亡。

23(火)●鹿児島市で最大一㍍近い地盤沈下、と新聞に。

24(水)●読売新聞、婦人面専任記者二人を採用。

25(木)●上海で、国民対日同志会結成。「二一ヵ条要求」に抗議し、日貨排斥運動など推進。

26(金)●二三日に所沢飛行場を出発した陸軍機が大阪の城東練兵場に到着、初の京阪間飛行を達成。

27(土)●女学生の間で「よくってよ」などの言いまわしが流行、識者は眉をひそめている、と新聞に。

28(日)●北海道・上川地方で猛吹雪、最大六㍍の積雪で、列車五本が雪中に立ち往生。

「写真タイムス」

▲中国各地で反日運動(3月)中国政府が大総統令を発して取り締まったが、効果はなかった。写真は反日を象徴する中国紙幣。「対華21ヵ条要求」を受諾した「国恥日」を忘れるなとのスタンプが押されている。

THE KOBAL COLLECTION/G.I.P.Tokyo

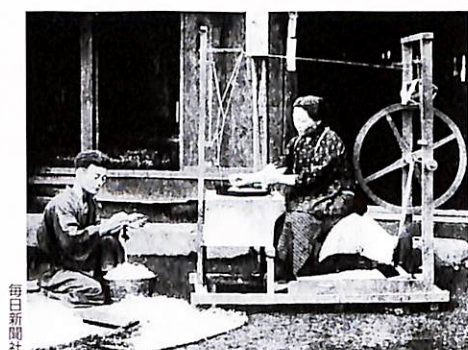
▲全米、緊張(3月)人種差別を掲げるKKKを肯定的に描いた映画「国民の創生」が前月封切られ、激しい論議が起きた。人種間の緊張も高まり、上映を禁止する州も。写真は撮影を指揮するグリフィス監督(左)。

▲闘犬ブーム(3月14日)東京・新宿で、.ブルドッグ、土佐犬、秋田犬などの飼い主が、観客を集めて大会を開催。動物愛護会の非難などにより、7月、警視庁は闘犬・闘鶏・闘牛の禁止を通達した。

毎日新聞社

▲沼津御用邸の裕仁親王(3月)学習院初等科卒業後、「帝王学」を学ぶため、東京・高輪の東宮御学問所で、前年から厳格な日常生活を送っていた。13歳。

▶日本、中国へ威圧の派兵(3月13日)「対華21ヵ条要求」交渉の渦中だった。写真は25日、鳥取県・境港から旅順に出発する、松江連隊の兵士約800人。

「写真通信」

毎日新聞社

▲政府、蚕糸業救済案決定(3月3日)不況にあえぐ業界のため、資本家を集めて半官半民の救済組織を設置、生産・販売の促進をはかることとした。20日、政府はこれにそって500万円の補助金を支出、横浜に帝国蚕糸(株)を設立した。

大正4年3月

1(月)●英国が婦人部隊を創設。

2(火)●米国での日本に関する話題は排日問題から「欧州に軍を送るか」に転じた、と新聞に。

3(水)●枢密院委員会、勅令による蚕糸業救済案を否決。政府は行政処分による救済を実行と声明。

4(木)●露、ダーダネルス海峡とイスタンブールの領有を要求。英仏は秘密協定で承認。

5(金)●中型駆逐艦「楠」進水(3~4月にかけ、外洋航海に耐える駆逐艦一〇隻が一気に完成)。

6(土)●横須賀で、海軍機が初の事故、三人死亡。

7(日)●長野県東川手村で大規模な地滑り、被害地域の三七人全員が離村を決め、家屋を取り壊す。

8(月)●英国、満州(中国東北部)での日本の地位伸張を理解すると声明。

9(火)●選挙運動用演説レコードを娯楽ものと組み合わせて聴衆に聞かせると選挙違反、と新聞に。

10(水)●西田幾太郎、『思索と体験』刊行。

11(木)●英国、敵国向け禁輸品の没収を宣言。

12(金)●蓄音器が中流家庭にも普及の気配、と新聞に。

13(土)●東京衛生研究所、モルヒネなどの国産に成功。

14(日)●太平洋海域でただ一隻活動中だった独の巡洋艦「ドレスデン」が、英艦に撃沈される。

15(月)●対独石油封鎖の成否が大戦のカギ、と新聞に。

16(火)●大審院、官有地の入会権を否定する判決。

17(水)●中国・青島で掃海作業中の日本の掃海艇が爆沈、一二人が死亡・行方不明。

18(木)●独の国会前で開戦後初の反戦デモ。

19(金)●インド防衛法成立。反英・独立運動を抑圧。

20(土)●政府が五〇〇万円を助成し、半国策会社・帝国蚕糸(株)設立(第一次蚕糸業救済)。

21(日)●夫・寛の選挙を応援する与謝野晶子の短歌が、京都の女学生の間で大流行、と新聞に。

22(月)●独飛行船、パリを夜間爆撃。

23(火)●上海の日貨排斥運動が激化、暴行事件も発生。

24(水)●三越呉服店、学習院女学部同窓会と共同で新しい袴地を開発、従来の半値以下で評判に。

25(木)●袁世凱、排日運動取締りを命令。

26(金)●古社寺保存会、国宝三三、保護建物一八を決定。

27(土)●和歌山県太地村で大火、一五〇戸焼失。

28(日)●ハワイ議会に日本芸妓禁止案上程、と新聞に。

29(月)●東京で、桜の枯死防止に外科手術、と新聞に。

30(火)●宮城県気仙沼町で大火、一一〇〇戸焼失。

31(水)●東京の「三助」は三〇〇人、食事つき日給四〇銭で、親方へ年間一〇円以上上納、と新聞に。

「写真タイムス」

▲東照公300年祭(4月16日)徳川家康の遺徳を偲び、徳川家代々の霊殿のある東京・芝増上寺で大法要。3日間連続で、大名行列などの催しが盛大に行われた。

「写真タイムス」

◀明治神宮造営へ(5月1日)祭神を明治天皇・昭憲皇太后の2神とすることや、伏見宮総裁以下の造営局の体制などを決めた。写真は、東京・代々木御料地内の本殿建設地。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▶戦艦「榛名」完成(4月19日)基準排水量2万6330トン、36センチ砲8門。同じ日、同型艦の「霧島」も完成、これで、新型主力艦「金剛」型4隻が勢ぞろい。

▲三浦環、ロンドンで絶賛(5月31日)独飛行船がロンドン初空襲を行ったこの夜、三浦はオペラハウスで「蝶々夫人」になりきり、最大級の賛辞を得た。

▶ケマル・パシャ登場(4月25日)イスタンブール陥落をねらう英仏連合軍が、ガリポリに上陸(写真)。しかしトルコ軍は猛反撃で、翌年これを撃退。司令官・ケマルは革命後、初代大統領となり、「アタチュルク(父なるトルコ人)」と称された。

CORBIS-BETTMANN/PPS

▲「白人のホープ」勝つ(4月15日)ハバナでボクシング世界ヘビー級選手権試合。ウィラードが、7年間王座にあった黒人選手・ジョンソンを26回、KO。

HULTON GETTY/オリオン・プレス

大正4年4月

1(木)●上野―新潟間で寝台列車運転開始。

2(金)●東京市、日本橋の通称「やっちゃば」に三〇〇〇円の予算で近代設備の公衆便所を着工。

3(土)●精工舎製の掛け時計が、独製品に替わりロンドン市場で好評、注文相次ぐ、と新聞に。

4(日)●アイルランドで、独立を要求するシン・フェーン党が蜂起(鎮圧)。

5(月)●経営不振の東京市電気局、一三一人を整理。

6(火)●内閣統計局、大正二年末現在の人口を、五二九一万一八〇〇人と発表。

7(水)●英王室で禁酒令、国民に範を示すと新聞に。

8(木)●日本船員四人、太平洋八九日間の漂流後救助。

9(金)●陸軍機が高度日本新記録、二五〇〇メートルを達成。

10(土)●株価がようやく持ち直しの気配、と新聞に。

11(日)●東京と京都で昭憲皇太后一年祭。諒闇明ける。

12(月)●山口県宇部の炭坑で浸水事故、二三四人死亡。

13(火)●試運転中の新戦艦「霧島」に英船が当て逃げ。

14(水)●輸入絶えた染料の暴騰で薄色が流行と新聞に。

15(木)●武蔵野鉄道・池袋―飯能間開通(現・西武鉄道池袋線)。

16(金)●徳川家康三百年祭、各地で多彩な記念行事。

17(土)●「二一ヵ条」めぐる日中交渉行き詰まり、中断。

18(日)●労組・友愛会に神戸支部が発足。

19(月)●大隈首相、皇族・外国使節・議員・実業家・学者など二千余人を私邸に招き大園遊会を開催。

20(火)●慶応義塾野球部選手に落第者続出、教授会が「公正な採点」を断行したため、と新聞に。

21(水)●天皇が伏見宮邸行幸の余興に松旭斎天勝の奇術を希望、と新聞に。

22(木)●ベルギーのイープルで独軍が毒ガスを初使用。

23(金)●大分県佐賀関で、精錬工場誘致めぐり、反対派住民が誘致派宅などを襲い負傷者多数。

24(土)●トルコ、国内のアルメニア人一七五万人を追放、六〇万人がメソポタミアの砂漠で餓死。

25(日)●英仏連合軍、ダーダネルス海峡確保のためガリポリに上陸。トルコ軍の猛反撃で翌年撤退。

26(月)●芸術座、帝劇でツルゲーネフの「その前夜」を上演、劇中歌「ゴンドラの唄」が大ヒット。

27(火)●靖国神社、青島戦での戦死者を合祀。

28(水)●静岡県茶業組合が紅茶生産を研究中と新聞に。

29(木)●国民外交同盟会、「二一ヵ条要求」での政府の弱腰を批判、対中国外交「積極化」を求める。

30(金)●独の通商破壊艦を追って英艦隊と行動していた軍艦「日進」が八ヵ月ぶりに帰国。

証言・あの日この日
島崎藤村(42)

3月8日(月)〈今日はまた雪がチラついて居ます。三月に入つても未だ―私共は冬籠の有様から脱け切ることが出来ません。聞くところによれば独逸はひそかに六十萬の新募兵を訓練し、先ずそれを波蘭方面に送り、露西亜軍をして要塞を守るの余儀なきに至らしめ、更に聯合軍側に向つて殺到する計画を立てたとか。/頃日露西亜側の報が急に活気を帯びて来たのも斯の辺の消息を語るものでせう〉(島崎藤村『戦争と巴里』)

この頃、私生活上のトラブルが原因で日本を脱出し、フランスに滞在していた島崎藤村は、そこで第1次世界大戦に遭遇する。一時は戦火を避けてパリを脱出するが、再びパリに戻る。開戦から7ヵ月後のパリの街は動員当時の混乱もおさまり、静まり返っている。藤村は何事にも冷静なフランス人の生活態度に驚く。(山崎行太郎)

「写真タイムス」

▲東京の電話局が仕事ぶり公開(5月19日)市内各局が加入者に対し、31日まで毎日見学を受け付け。交換手の多忙ぶりに同情が集まり、効果満点だった。写真は、中央電話局での参観の様子。

「写真通信」

◀上海で第2回極東五輪(5月15日)中国が200人の大選手団、日本は13人が出場した。テニスの熊谷(後列右端)らが優勝、マラソンの金栗は4位だった。

▼京都先斗町の芸妓が大挙上京(5月22日)祇園の「都をどり」と並称される「鴨川踊り」を、歌舞伎座で興行。写真は、宿泊先の築地精養軒を出る芸妓連。

▼清水金太郎好演(5月27日)帝劇洋劇部が、オッフェンバックの喜歌劇「武無(ブン)大将」を上演。後に浅草オペラの人気俳優となる、若き清水(27)が好演。写真は大正7年、浅草・金竜館での「武無大将」。右から二人目が清水、左端が田谷力三。

「写真タイムス」

「写真通信」

▲奈良・東大寺で大仏殿大修理の落慶式(5月2日)緋の衣に金襴の開眼導師・筒井大僧正ら、総勢500人余の大行列が大仏殿に練りこみ、導師は慈眼を仰いで「点眼の作法」を行い、伝統の儀式を尽くした。

大正4年5月

1(土)●内務省、明治神宮造営局を設置。

2(日)●奈良・東大寺の大仏殿修築が完成、落慶法要。

3(月)●伊、独・オーストリアとの三国同盟条約破棄。

4(火)●閣議、対中国最終通牒案決定。第五号を削除。

5(水)●東京図書出版協会、初の図書分類目録を発行。

6(木)●米、英・仏・露に日中交渉への共同干渉を提案。

7(金)●独潜水艦が英豪華客船「ルシタニア号」を撃沈。

8(土)●米のケンタッキーダービーで、牝馬が初優勝。

9(日)●中国、日本に「二一ヵ条要求」承認を回答(以後、中国ではこの日を「国恥記念日」とする)。

10(月)●友愛会、米国の排日運動緩和のため、鈴木文治会長の米労働総同盟大会派遣を決定。

11(火)●和歌山県の加太軽便鉄道で、強風により列車が橋から転落、幸い乗客なし。

12(水)●静岡で、十円札偽造団一六人を送検。

13(木)●漢口で、中国民衆が日本商店を襲撃。

14(金)●団扇が年々変形し、丸形がすたれた、と新聞に。

15(土)●東京大相撲、給金問題などで協会と力士が紛糾し、この日初日の五月場所を開けず。

16(日)●高田(現・上越市)で火災、寺院二九が焼失。

17(月)●東京の博文館印刷工場、放火で九棟を全焼。

18(火)●泰宮聡子内親王、東久邇宮稔彦王と結婚。

19(水)●陸軍が探照灯の試作品を完成、と新聞に。

20(木)●独に拘留されていた民間邦人が釈放され帰国。

21(金)●偽造防止のため新郵便為替証書発行と新聞に。

22(土)●大阪・中之島に難波橋が完成、石工延べ三万六〇〇〇人など投入し、美観随一誇る。

23(日)●東京フィルハーモニー会、山田耕筰の指揮による月一度の定期演奏会を開始(~翌年2月)。
●伊、かつての同盟国・オーストリアに宣戦布告。

24(月)●独、対伊国交断絶。

25(火)●日中、「二一ヵ条要求」に基づく条約に調印。

26(水)●与謝野晶子、「読売新聞」に議会傍聴記を寄稿、議員に誠意・知識・礼節がないと酷評。

27(木)●帝劇洋劇部、オッフェンバックの喜歌劇「武無大将(戦争と平和)」を上演。
●独潜水艦、英軍艦「トライアンフ」を撃沈。

28(金)●大阪に音楽学校設立の計画、と新聞に。

29(土)●連合国、ブルガリアにマケドニアの譲渡を提案(ブルガリアは拒否)。

30(日)●東京・大阪で闘犬が復活し隆盛、と新聞に。

31(月)●独飛行船、ロンドンを初空襲。
●三浦環、ロンドンのオペラハウスで「蝶々夫人」初公演、好評。

「写真タイムス」

▲**慶大講堂開館（6月6日）**東京・三田の構内に完成。総建坪220坪余、3階建て。大隈首相、渋沢栄一、犬養毅らが祝典に出席、福沢諭吉の独立・自尊の精神をかえりみつつ挨拶を述べた。

▲**「無限軌道車」公開（6月9日）**衆議院前庭に議員を集めて、試運転。発明者は「労力軽減道路保持」を強調。この頃の東京は、まだまだ「降れば泥濘」という道路事情だった。

「写真タイムス」

「写真タイムス」

▲**梅ケ谷、引退相撲（6月19日）**東京・両国国技館で挙行。37歳。12年24場所も横綱をつとめた。最後の土俵入りは露払い・鳳、太刀持ち・太刀山の両横綱。

◀**日本初の国際無線電信（6月15日）**北海道・落石と、ロシアのペトロパブロフスクの固定局間で業務を開始、国際電報事情が飛躍的に向上した。

「写真タイムス」

◀**杉本京太（32）、和文タイプを発明（6月12日）**文字盤から文字をさがして印字する方式を考案、特許も取得した。写真は、東京商業会議所で使用してみせる杉本。

▶**パリの日赤看護婦（6月）**アストリア・ホテルに、日赤が2月に仮病院を開設。写真はその大食堂で。第1次大戦で負傷した兵士を看護、20人が翌年7月まで働いた。

「写真通信」

大正4年6月

1（火）●海軍、海防艦「若宮」を航空隊母艦とする。
2（水）●米国、内戦続くメキシコに秩序回復要求。停戦しなければ干渉すると警告。
3（木）●夏目漱石、「道草」を「朝日新聞」に連載開始。
4（金）●内紛で延期されていた大相撲五月場所、初日。
5（土）●博士号保持者は延べ九五〇人、と新聞に。
6（日）●上高地の焼岳が噴火、大正池が生まれる。
7（月）●大審院、芸妓稼業契約とこれに関する前借金契約を、公序良俗に反し無効と判決。
8（火）●ブライアン米国務長官、「ルシタニア号」撃沈をめぐる大統領の強硬姿勢に抗議し辞任。
9（水）●東京近郊で貸地が急増、需要も多く、東京は急激に膨張している、と新聞に。
10（木）●英、独の植民地・カメルーンを占領。
11（金）●官業整理調査委員会設置。官営事業を整理。
12（土）●杉本京太、和文タイプライターの特許取得。
13（日）●大戦勃発以来外国からの観光客が減少する中、ロシア人観光客は増加、と新聞に。
14（月）●天皇即位大典の御料車がほぼ完成、と新聞に。
15（火）●京都帝大、総長を学内公選で選出し、発令。
16（水）●徴兵検査で、甲種合格者が激減、と新聞に。
17（木）●仏軍、兵士にヘルメットを支給。
18（金）●医学生に就職難、特に東京で医師の過剰が目立つ、と新聞に。
19（土）●理化学研究所設立委員会が発足。
20（日）●政府の対中国政策への不満が高まる中、元老会議開催。井上馨は加藤高明外相更迭を主張。
21（月）●無尽業法公布。無尽・頼母子講を免許制に。
22（火）●政府、熱海線（東海道線国府津－沼津間）建設を決定。丹那トンネルを含む大工事。
23（水）●鉄道院、組織改正。東部・中部・西部・九州・北海道の五鉄道管理局を設置。
24（木）●米国からシベリア経由でロシアに送られる軍需品が激増している、と新聞に。
25（金）●高級官僚の昼食、海軍省は三〇銭、外務省は三五銭の定食が多く意外に質素、と新聞に。
26（土）●矯風会、老人ホーム設立のため慈善音楽会。
27（日）●岡本一平・北沢楽天ら新聞マンガ記者一〇人が、第一回漫画祭開催。
28（月）●守田勘弥らの文芸座、帝劇で第一回公演。
29（火）●天皇・皇后、「御真影」用の写真を撮影（即位大典後、各学校に配付）。
30（水）●内務省、看護婦の資格に関する規則を制定。各県ごとの資格を全国一律化。

「現場」を歩く 芝白金
北里柴三郎の私設研究所に今も健在な「終始一貫」精神

山本徹美

▲平成9年4月に開設された北里柴三郎記念室。ペスト菌発見報告書や各種研究論文、愛用していた時計、眼鏡など、ゆかりの品が展示されている。 但馬一憲

大正四年一一月一一日、東京・芝白金三光町で「北里研究所」が開所式を挙行。

ゴシック式建築で円塔のある三階建て本館を中央に、総二階の右翼と左翼に診療室や研究室などを配置。敷地総面積約二五〇〇坪（約八二五〇平方メートル）、総建坪七七二坪（約二五五〇平方メートル）、総工費約二〇万円。建物自体は一一月に完成していたが、所長である北里柴三郎が恩師・コッホ博士の誕生日にちなみ、この日を選んだ。北里自身の誕生日は九日後の一二月二〇日（一八五二年）である。

熊本県阿蘇郡小国郷北里村に生まれた柴三郎は、熊本医学校から東京医学校（現・東京大学医学部）を経て内務省衛生局に入所。明治一八年、辞令によりドイツ留学、コッホに師事。同二二年、破傷風菌の純粋培養に成功、翌年には破傷風免疫体を発見。血清療法および免疫学の基礎を築く。同二五年帰国後、内務省管轄の伝染病研究所所長に就任したが、大正三年一一月、大隈重信内閣は突然、研究所を内務省から文部省（東大）に移管。

伝染病の予防や流行の阻止には行政と連携する必要があり、その見地から内務省の所管が最適と考えていた北里は、「行政整理ナルモノハ那辺ニ向テ其鋭眸ヲ揮ハレントスルモノヤ」と、猛反発、辞任。同調した職員三〇人も全員総辞職した。細菌ならぬ〝時の政府〟と戦ったうえでの私設研究所誕生であった。

免疫学の戦いは続く

社団法人北里研究所を訪ねてみる。すぐ隣が慶応幼稚舎。かつて、このあたり一帯は福沢諭吉が所有しており、彼は柴三郎のよき後援者でもあった。

諭吉は、政府などあてにならない、と私有地を提供し病院経営を勧めた。諭吉の予見はみごと的中。柴三郎は、その病院の黒字分約三〇万円を研究所開設にあてたとされる。

本館一階に、北里柴三郎記念室が開設してあった。中にはペスト菌発見報告書などゆかりの品々が展示してある。私が目をひかれたのは「終始一貫」という揮毫だ。北里の〝もっこす魂〟が、よく現れていると思う。

平成九年四月に開室後、一年間で記帳者だけでも約五〇〇〇人。

「いまだに根強い信奉がありますね。毎年六月には本館二階で慰霊祭がいとなまれるのですが、国内外から三〇〇人以上、参列されています」（大岩留意子室長）

敷地内にはコッホ・北里神社も祀ってあり、信仰の対象にさえなっている。政局や時流に翻弄されることなく、「終始一貫」研究と治療に取り組んだ柴三郎の姿勢が共感を呼ぶのだと思う。

北里研究所では現在、遺伝子レベルでの感染症の原因追究と治療法の研究が主流。中でも私たちになじみ深いのは、各種ワクチンや抗生物質の供給だろう。いまだに病原性細菌類による災禍は絶えない。O‐157による食中毒禍では、国立予防衛生研究所からそのメカニズムに関して問い合わせがあったという。柴三郎の面目躍如といったところだろう。

北里研究所提供

▲「北里研究所」は総工費約20万円、竣工までに1年を要した。写真は開設当時の研究室風景。

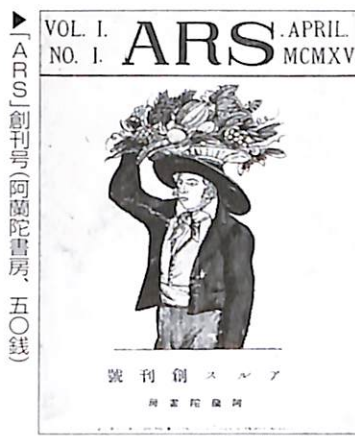
ベストセラー

森鷗外、上田敏を顧問に北原白秋、「ARS」創刊

この年四月、北原白秋が設立した阿蘭陀書房から芸術総合誌「ARS」が創刊された。ラテン語で芸術を意味する〝ARS〟をそのまま誌名にしたもので、創刊号には、蒲原有明や木下杢太郎、堀口大学、高村光太郎、室生犀星、萩原朔太郎、山村暮鳥らが作品を寄せ、斬新な雑誌となった。

白秋も「パパイヤ物語」という、奇妙な味わいを持つ散文作品を連載したが、巻末の「阿蘭陀書房の言葉」に決意の烽火を明記した。「プラグマチズムの烽火いかに勢ひたりとも、つりしのぶ昔の恋の物のあはれぞいやさらになつかしき。／ここに阿蘭陀書房を開きしは今の世の詩人北原の白秋、その弟鉄雄に算盤の珠を弾かせ、自らは赤茶の短衣に天鵞絨の土耳古帽子、加比丹が持つかの大きなるマドロスパイプを啣へてぞ涙ながしける。芸は長く命短し善主麿、真実無二なる披露の言葉、さあさあ評番ぢや評番ぢや」と。顧問には森鷗外、上田敏をおいた。

▲「ARS」創刊号（阿蘭陀書房、50銭）

日本近代文学館提供（3点とも）

一方、当代の人気作家の一人、徳田秋声は、強い女をヒロインにした小説『あらくれ』を上梓した。「あんなへなへなした男は大嫌いです」と言い切ることのできるヒロインは、男をものともしないたくましい生活力を備えており、新しい時代の女性のありようを想像させた。

また詩歌の方では画期的な詩集が刊行された。山村暮鳥の『聖三稜玻璃』で、室生犀星をしてその跋文で「曾ての日本の詩人に比例なき新鮮なる景情を創つた」と書かせたほど、衝撃的な詩集だった。〝いちめんのなのはな〟というフレーズを何行も繰り返すことによって、菜の花畑のイメージを広げて見せた「風景」など、斬新な詩が収められた。ほかにも「みなそこの／ひるすぎ／走る自働車／魚をのせ／かつ轢き殺し／麗かな騒擾をのこし」（「曲線」）といった、これまでに類のない作品がある。

▲「聖三稜玻璃」（にんぎょ詩社、50銭）

▶「あらくれ」（新潮社、78銭）

スターと名場面

デビュー作「成功争い」でチャップリン・ウォーク誕生！

この頃のエンターテインメントは新旧ともに活発で、繁華街への人出は衰えることがなかった。歌舞伎は五代中村歌右衛門を中軸として、十五代市村羽左衛門や、六代尾上菊五郎、七代松本幸四郎、初代中村吉右衛門らがきら星のごとく登場し活躍していた。

新劇の方も積極的にヨーロッパの芝居を取り上げ、ますます人気を高めていった。川上貞奴一座も人気役者、井上正夫と組んで「サロメ」を演じるなど新たな話題を提供した。

この年欧米で公開されたアメリカ映画「ザ・チート」における日本人俳優・早川雪洲の演技が、ヨーロッパでも評判を呼び、日本人の欧米映画進出の意欲を刺激した。「ザ・チート」の内容自体は日本人にとって屈辱的なものだったため輸入されなかったが、映画技術的には一段と進歩したものだった。

また、チャールズ・チャップリンのデビュー作品が日本で初公開され、その芸達者ぶりが、早くも注目を集めた。前年に製作された「成功争い」（レアマン監督）で、独特の浮浪者スタイルやステッキを振りながら歩くチャップリン・ウォークの片鱗を見せ、どことなくぎこちなくて面白い演技は、天才的喜劇役者の誕生を十分予感させるものだった。

松竹提供

▲五月、歌舞伎座で宮城野を演じた中村歌右衛門。

▶本郷座で公開された川上貞奴一座の「サロメ」。サロメの貞奴（左）とヨカナーンの井上正夫。

▲早川雪洲をトップ・スターの座に押しあげた「ザ・チート」。監督はセシル・B・デミル。写真左が雪洲。右はファニー・ウオード。

モノ語り'15

舶来品もかなわない！「窒素ガス入り電球」「亀の子束子」養毛剤「フローリン」

◀**台所に静かでたしかな革命が起こった**　西尾正左衛門商店（現・亀の子束子西尾商店）が開発し製造販売していた「亀の子束子（たわし）」に、この年特許権が与えられ、品質の安定した、この亀の子束子が台所用品の定番になった。素材は椰子の実の繊維で、これを針金に巻きこんで作る独特の製法は、いまだに手作業を必要とする繊細なもの。ニセ物も多く出まわったが、品質で太刀打ちできなかった。1個5銭だった。

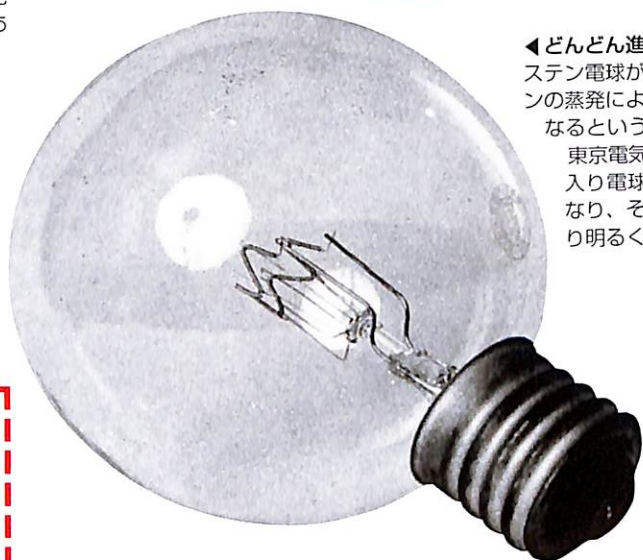
▲**マンドリンはモダンな楽器**　この頃、若者の間に流行した楽器に「マンドリン」がある。べっこう、あるいはセルロイド製の爪で弦を弾いて演奏する弦楽器だが、独奏だけでなく、マンドリンだけの〝オーケストラ〟を組んで合奏することも流行した。

浜松市楽器博物館蔵／平山亮

▼**偽造防止策をもりこんだ新しいお札**　この頃になると写真製版技術が高度になってきたため、あらためて紙幣に偽造防止策が講じられた。この年発行された「乙10円券」も、透かし彫りや、複製がむずかしい淡緑色や紫色を用いるなどの工夫を凝らした。なお、左側に肖像がある日本のお札はこれだけである。　お札と切手の博物館蔵

◀**どんどん進化する電球**　この頃の電球は、タングステン電球が主流になっていたものの、タングステンの蒸発によって、電球に煤がついたような状態になるという欠陥があった。これを克服したのが、東京電気（現・東芝）がこの年発売した「窒素ガス入り電球」である。ガスの効果で蒸発が少なくなり、そのため高温で熱することができて、より明るくなったのである。

ネーミングも抜群！

「亀の子束子」の名称のうち、亀の子は、その形状が似ていることと、水に縁のある商品であること、そして「亀は万年」と言われ縁起がよいことによる。束子は、漢学者に相談して決めた宛て字。この組み合わせが、今や普通名詞のように受けとめられている。登録されたロゴ（写真の文字）は、亀の子束子の考案者にして創業者・西尾正左衛門のアイディアで、当時の流行作家・村上浪六に書いてもらったもの。現在まで使われ続けているロゴだ。写真は、昭和初期の看板である。

◀**「君が代」をイメージした記念タバコ**　天皇即位の大礼を記念して口付きタバコ「八千代」が、専売局（現・日本たばこ産業）から発売された。専売局記念タバコの第1号で、名称は「君が代」にある歌詞からとられ、式典の時の舞楽に使用される火焔太鼓がデザインされた。極彩色で美しく、記念に保存している人も多い。価格10銭。

たばこと塩の博物館蔵

▶**舶来品に劣らない人気養毛剤**　〝流れるような美しい髪〟をイメージして名づけられた養毛剤「フローリン」が、資生堂から発売され、人気を呼んだ。当時の広告には、「佳快の香気を有するもっとも進歩せる養毛美髪剤にして、脱毛を防ぎ〝ふけ〟を去るに理想的の新製品なり」とあった。第1次世界大戦の影響で養毛剤の輸入が困難になっていたことや、中身・パッケージともに舶来品に劣らなかったため、ヒット商品となった。価格は1円20銭〜3円だった。

人物クローズアップ

森 鷗外（五三）

“公人”と“私人”とのはざまで「中央公論」に「山椒大夫」発表

大正四年一月の「中央公論」に、森鷗外作の「山椒大夫」が掲載された。丹後国由良（現・京都府宮津市）に伝わる安寿と厨子王の哀話に題材をとったもので、鷗外五三歳の作品である。なおこの年五月には、雑誌「スバル」に連載されていた「雁」の単行本が籾山書店から刊行され、ベストセラーになっている。

「山椒大夫」の題材となった安寿と厨子王の物語は、説経節や浄瑠璃にもある一種の貴種流離譚で、勧善懲悪の出世物語として語られている。鷗外はそれを、運命に殉じながら神仏の加護によって救済される物語として描いたのである。

森鷗外は、文久二年（一八六二）一月一九日（新暦二月一七日）、石見国津和野（現・島根県津和野町町田）に、四人兄弟の長男として生まれた。本名は林太郎。生家は代々の典医で、林太郎はその嫡男として育てられた。時代は幕末。四万三〇〇〇石の小藩にも時代の波は押し寄せ、実力主義が台頭していた。そうした中、森家のすべての期待が林太郎に集中した。

明治七年、一二歳で第一大学区医学校（現・東大医学部）予科入学。一〇年に本科生となり、一四年に一九歳で卒業、陸軍軍医副に任官する。

文学者として文壇に登場してから一年、明治二三年一月、鷗外は小説第一作、「舞姫」を「国民之友」に発表する。一七年六月、鷗外はドイツに留学、四年余りをすごして二一年九月に帰国したが、「舞姫」はその留学体験に基づいて執筆したものである。官費留学生という“公人”としての自己と、異国の女性に恋する“私人”としての自己の葛藤と挫折を描いたこの小説のテーマは、鷗外のみならず、明治という時代のエリートたちに共通する課題でもあった。

以降、鷗外の初期の文学活動は多彩で、小説、翻訳、評論など多岐にわたった。一方、医学の近代化に対する啓蒙的な主張も多く、封建的な医学界への批判は、直属の上司にまでおよんでいる。

明治三二年六月から三五年三月まで、鷗外は小倉に左遷された。軍内部の嫉妬が主たる原因だったが、それ以後、彼の作品に「諦念」という心境が見え始める。

日露戦争後、鷗外には運命を甘受し、運命に殉じる人生態度が強く見られるようになった。大正元年以降の一連の歴史物語は、その主題を追求したものだが、中でも「山椒大夫」は、それを最も簡潔に表現したものだった。

“公人”としての顔と“私人”としての顔の二つを持ち続けた鷗外の、その二つの関係はどのようなものだったのか。

文芸評論家で鷗外研究家の小堀桂一郎氏は、こう述べる。

「“公人”と“私人”の関係を文学で調和していたのです。“公人”としての不如意を文学として表現することで、“私人”として生きる自分をそこに見ていたのでしょう」

大正五年、職を辞した鷗外は、翌六年、請われて帝室博物館総長兼図書頭、八年には帝国美術院院長に就任した。

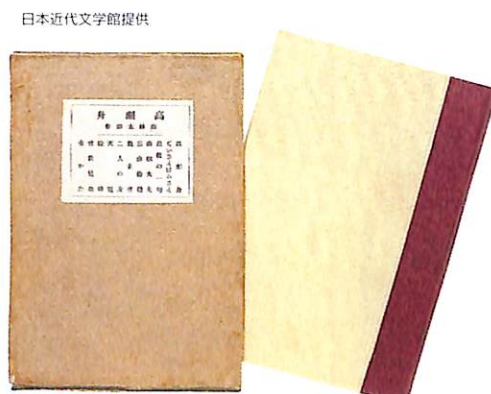
陸軍軍医総監、陸軍省医務局長という、軍医最高の地位をきわめた“公人”として、また文学者という“私人”として、栄光に包まれた人生を送った鷗外は大正一一年七月九日、いっさいの栄爵を辞し、「石見人森林太郎」として死ぬ、という遺書を残し、六〇年の生涯を閉じた。

ようやく、一人の“私人”になれたのである。

▲「スバル」に「雁」を連載していた頃、明治四五年一月、鷗外胸像の作者である武石弘三郎のアトリエで。鷗外五〇歳の時である。

文京区立鷗外記念本郷図書館提供

▲大正4年、「観潮楼」と名づけられた千駄木の自宅前で。

日本近代文学館提供

▲大正7年2月、春陽堂刊の『高瀬舟』。「山椒大夫」も、表題作などと一緒に収録されている。

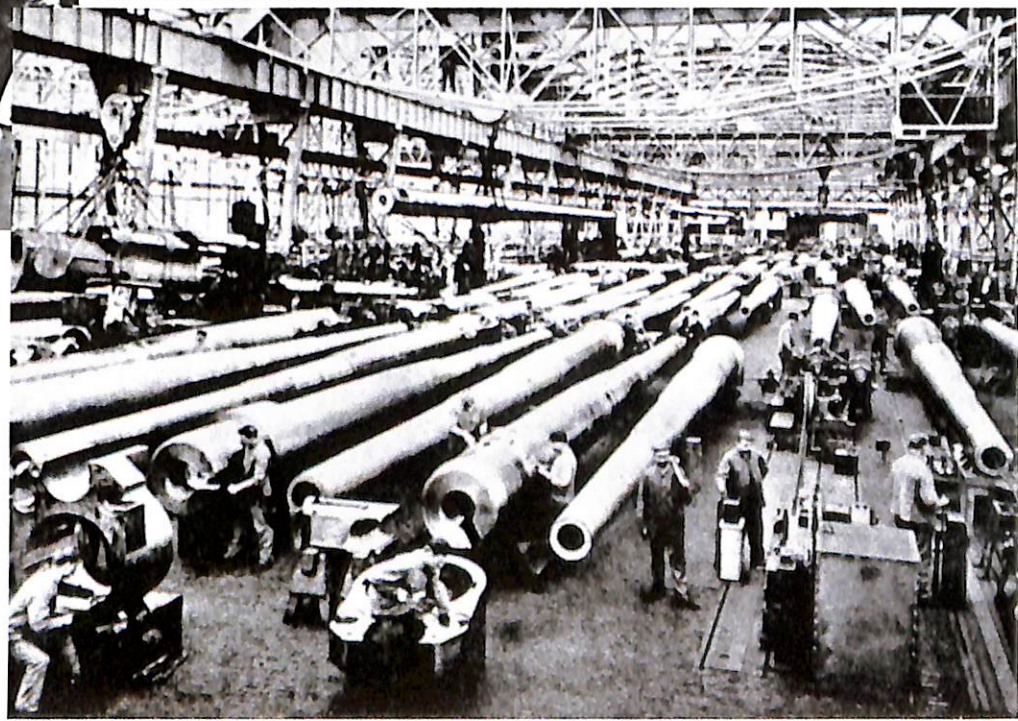
決定的瞬間

「軍需工場も〝戦場〟になった」一日使用量は二万発のはずが四五万発が必要と大増産中！

このイギリスの軍需工場では、火薬を詰め終えた砲弾が整然と並び、前線に運び出されるのを待っている。写真に写る砲弾の数はざっと見て数千発。しかし、これだけの数の砲弾も、イギリス軍にとっては数時間の需要にもみたない。「もっと多くの砲弾を！」。工場もまた、ヨーロッパの運命を決めるひとつの戦場だったのだ。

第一次世界大戦が始まった当初、各国首脳は、この戦争は短期に終結すると考え、たとえばドイツ皇帝のウィルヘルム二世は兵士たちに向かって「落ち葉が散る前までには帰郷できる」と約束していた。ところが開戦一ヵ月後、ドイツとフランスが対峙した西部戦線は膠着状態におちいった。この時点から、戦争は限定的な戦争から総力戦へと、性格を大きく変えていく。国家の持つ資源をすべて動員し、国家の存亡を賭けた戦いへと、その戦争目的を変質させていったのだ。

◀イギリスの軍需工場で生産される砲弾の列。総力戦体制は、女性をさまざまな職業につけた。
Popperfoto／ユニフォト・プレス

▼ドイツ最大の軍需工場・クルップ社における製砲作業。1914年、軍需産業は活況を呈していた。

徴兵制による動員と武器の大量生産は、弾薬の消費量にも大きな影響を与えた。各国は、一日の砲弾の使用量を約二万発と予想していた。しかし、実際には、それよりもはるかに多くの砲弾が使用された。フランス軍は、前年九月五日のマルヌの会戦で、七五ミリ砲実弾を一日につき五万発費消。それが一九一五年に入ると、砲弾の使用量はさらにふえ、一日八万〜一五万発。最高時には三五万〜四五万発を必要とした。各国とも事情は同じで、開戦二ヵ月で備蓄していた砲弾や弾薬を使いはたし、以後はその生産力の戦いとなった。

このため、ドイツではユダヤ系大資本家、ワルター・ラーテナウ（四八）が戦時資源局の局長に就任して、原料確保、軍需物資動員などのシステムを作りあげた。またウィルヘルム・グレーナー参謀幕僚（四八）が鉄道部長に就任。国内の鉄道網を駆使して、物資や兵員を各前線に送りこんだ。

一方、イギリスでは、陸相のハルツーム伯キッチナー（六四）、ロイド・ジョージ蔵相（五二）、ウィンストン・チャーチル海相（四一）などをメンバーとする軍事委員会が設置され、組合幹部は戦争の続く限りストライキを放棄すると宣言。労働力の不足を補うために、未熟練労働者や婦人労働者も積極的に雇用された。また、フランスでは、一九一四年の九月から民間工場を強制収用して、兵器・弾薬の製造に邁進。開戦時三〇〇門しかなかった重砲は、四年後には八〇〇〇門にふえ、軍需工場で働く人員も五万人から一六〇万人に膨れあがった。このように各国は長期化する戦争に備えるため、全国民を巻きこんだ総力戦体制を整えていったのである。

戦場に動員された兵士の数も、ドイツでは大戦初期だけで二三〇万人、最終的には一一〇〇万人を数えた。各国の最終動員数を見ると、フランス八四一万人、イギリス八九〇万人、ロシア一二〇〇万人、大戦に参加したすべての国の動員数は約六五〇〇万人となっている。このような膨大な数の兵士の動員と兵器・弾薬の大量生産が、戦場における大量殺戮を生んだのだ。

美の出会い

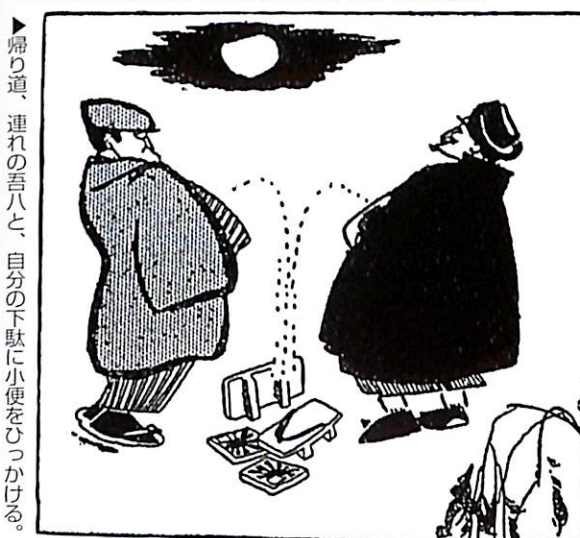
“漫画漫文”スタイルで人気！ 岡本一平が新聞各社の仲間と「東京漫画会」で普及活動開始

▲博士の手紙で上がった富田屋で、八千代と対面。

▲うどん屋から、八千代をよく知る医学博士に連絡。

▶芸を演じる八千代を、一平は鋭く観察する。

▶帰り道、連れの吾八と、自分の下駄に小便をひっかける。

「東京朝日新聞」の「富田屋八千代を観るの記」より（4点とも）

風俗や事件、政治を風刺したマンガに洒落て読みやすい文章をつけた「漫画漫文」というスタイルを作り、「東京朝日新聞」紙上で好評を博していた岡本一平（二九）は、大阪で評判の芸者を取材し、同紙に大正四年三月九日から二〇日まで、「富田屋八千代を観るの記」を連載した。

「大阪で今、一番の名妓と云ふは誰れだと大阪つ子に聞くと、『あんた知らんか、八千代やがな』と鼻で嘲笑はれた」一平は、何としてもこの芸者に会いたいと策を練り、大阪の名医の紹介状を取りつけ、富田屋に上がる。待ちに待たされたあげく、ようやく八千代が現れる。

「彼女の第一声『おゝけに』を聞くと頗ぶる塩辛声である。左様さ、競売やが風邪を引いて引籠つて居る徒然に浪花節を唸つてる時の声である」

この、声と顔の大きさの割に背丈が低いというアンバランスなスタイルに、一平の幻想は一瞬のうちに消え去り、日本人の女性観を皮肉りながら富田屋を後にする。こうした色街での体験を描いた通俗なマンガと軽妙な漫文が大評判になり、一平の知名度は一気にあがり、マンガ家としての地位を不動のものにした。

岡本一平といえば、現在では画家・岡本太郎の父、または作家・岡本かの子の夫として語られることが多く、かつては人気マンガ家であり、スーパースターであったことは忘れられがちである。

『岡本一平 漫画漫文集』（岩波文庫）の編者でマンガ研究家・清水勲氏は、“一平マンガ”を現代コミックの源流であり、映画的表現の元祖であり、子どもマンガの開拓者であるとして評価する。

「明治四三年に起きた『大逆事件』で、マンガ界が沈滞し面白くなくなった。そうした時期に、一平はそれまでになかった『漫画漫文』というスタイルを創り出し、たんなる社会・政治風刺ではない、人間性そのものを風刺する質の高い表現を試みた」

これを機に、一平はマンガ界でのリーダー的な存在になり、マンガ家の地位や経済的な向上のために尽くすことになる。

大正四年六月、一平は東京美術学校で同級だった「読売新聞」の近藤浩一路（三一）や「国民新聞」の池部鈞（二九）をはじめ、「時事新報」の北沢楽天（三八）や岡田九郎、「都新聞」の代田収一、「国民新聞」の平福百穂（三七）、「東京日日新聞」の本間国生、「やまと新聞」の小川治平らに呼びかけ、「東京漫画会」を結成した。そこには、仲間との親睦を深めるとともに、マスコミや社会全般にマンガの存在をアピールしようというねらいがもりこまれていた。

「マンガ」という言葉が一般に知られるようになったのは、この会のメンバーが積極的に使うようになったからで、実際には昭和に入ってからである。それまではマンガは「狂画」「戯画」「ポンチ絵」などと呼ばれ、新聞のカットとして掲載されていたが、マンガ家の地位や経済的基盤はたしかなものではなかった。

この後も、「東京漫画会」は全国でマンガ展やマンガ祭、講演旅行などを開き、マスコミや宣伝広告界などに存在をアピールし、仕事の拡大に実績をあげていった。これら数多い催事の中でも、大成功をおさめたのは、大正一〇年五月に行った「東海道漫画旅行」である。一平をはじめとする参加者一八人は、五台の自動車に分乗して東京・日本橋を出発し、京都に向かった。彼ら一行は各地で大歓迎を受け、マンガに対する世間の関心の強さに、十分な手ごたえを感じたのである。

東京・京橋という江戸文化の名残の濃い街で生まれ育った一平は、粋で面倒みがよく、親分肌なところがあったため、慕ってくる若者が多かった。彼は昭和三年頃から定期的に「一平塾」を開催。ここから横山隆一、清水崑、杉浦幸雄、近藤日出造、宮尾しげをら、昭和期に活躍するマンガ家の多くが輩出することになる。なお昭和四年から五年にかけて先進社から刊行された『一平全集』全一五巻は、予約販売五万セットという驚異的ベストセラーとなった。

▲「漱石先生」。昭和2年。28.5×38.5センチ。「吾輩は猫である」を執筆していた頃の漱石を描いたもの。一平と夏目漱石のつきあいは、「朝日新聞」に連載されていた一平の「漫画漫文」を、漱石が激賞していたことから始まる。大正3年に刊行された一平の『探訪画趣』に、漱石は序文を書いている。

川崎市市民ミュージアム提供

▲大正14年、東京・青山南町3丁目の自宅で、妻のかの子、子息の太郎と。かの子は「老妓抄」などで知られる作家であり、太郎は後年、画家として名をなした。

◀『マッチの棒』表紙。「東京朝日新聞」や「学生」「印刷世界」などの雑誌に掲載された作品をもとに編集された。大正四年、磯部甲陽堂刊。

川崎市市民ミュージアム提供

◀『物見遊山』表紙。大正四年から五年にかけて、「東京朝日新聞」に掲載された作品をもとに編集された。大正五年刊。

川崎市市民ミュージアム提供

20世紀博物館

ワイン資料館
山梨・勝沼町

“品質や味わい方”などの蘊蓄と違ったアングルからワインを楽しむ

桑原茂夫

楠田守(四点とも)

▲明治時代のワイン草創期に用いられていた、樽と各種の道具。古色蒼然とした中にも、ワインの香りを感じさせる。

ワイン資料館がある山梨県勝沼町は葡萄(ぶどう)の町である。「甲州葡萄」の特産地としても知られるが、ワインの生産地でもある。それも、日本で最も古くからワイン生産に取り組んできた町で、ワイン用の葡萄栽培も積極的に行ってきた、国産ワインの拠点のひとつなのだ。

そして、このワイン資料館は、勝沼のワイン生産の中軸を担うメルシャン株式会社によって設立・運営されている。

明治一〇年、この地にメルシャンの前身にあたる大日本山梨葡萄酒会社(通称・祝村(いおいむら)葡萄酒会社)が設立され、同年秋には高野正誠(まさなり)(当時・二五歳)と土屋龍憲(りゅうけん)(当時・一九歳)という二人の青年をヨーロッパに派遣、本場フランスでワイン製造術を学ばせた。その時から現在にいたるまでの、本格的なワイン作りの歴史をたどる資料館なのである。

建物自体、明治三七年に創設されたワイン醸造場であり、なまこ壁を持つ外装の貫禄もさることながら、ワイン作り草創期の道具類がさり気なくおかれている展示空間が、ワイン作りについやされてきた長い時間を実感させる。

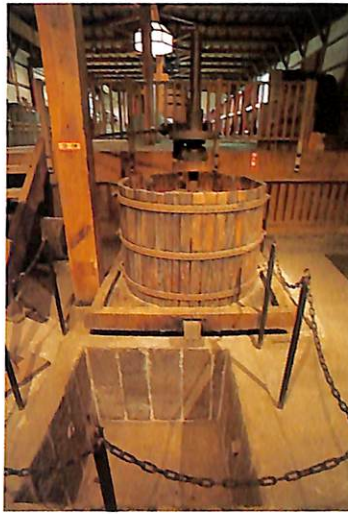
草創期の道具類はどれも基本的には木製で、葡萄の粒を砕く「破砕器(はさいき)」、押しつぶす「圧搾器(あっさくき)」などの基本装置から、発酵中の果汁を攪拌(かくはん)する時に使う「櫂(かい)」や澱(おり)をすくい取る「かすり」などの小道具、はては葡萄を運びこむ時、葡萄を入れた竹の籠(かご)やそれを積んだ荷車など、多種多様だ。そして、そのひとつひとつについて、役割や意義などが明記されているので、たとえば、シーズンともなると荷車が次々とこの醸造場に向かってくるシーンを想像することができ、目の前の荷車がたちまち生き生きとした存在に見えてくるのである。

それらの道具類にほどこされた工夫の数々も面白い。たとえば、葡萄破砕器の金網がある。葡萄の粒をはさみこんで砕くローラーに金網を巻きつけ、葡萄の種を金網の間に残してつぶさないようにする工夫なのだ。この醸造場を創った宮崎光太郎という人のアイディアで、日本独特のものなのだそうだ。おいしいワイン作りに全力を傾注した人の熱意が、まことに具体的に伝わってくる。

ところでこのワイン資料館は博物館であるだけでなく、実は現在もワイン貯蔵庫として機能してもいる。地下に大きな樽が二列にずらりと並んでいて、樽の中のワインが生きて熟成の時を刻んでいるのである。

この地下貯蔵庫の環境もいい。全体がひんやりとした空気に包まれている。これは、すぐそばを流れる川の水による天然のクーラー効果なのだが、ワインが自然とともにあることを実感させる。

ワインの品質とか味わい方とはまったく違ったアングルからワインを知ることができ、ワインの実質がぎっしり詰まったミュージアムだった。

▼かつて使われていた圧搾器。しぼり取られた後の果汁が、下のプールに溜まる。それを、ひしゃくで汲み上げては、樽に運んだ。

▲資料館地下で、今も現役として使われているワイン貯蔵庫。熟成している最中である。

▲ワイン資料館外観。日本最古のワイン醸造場でもある。内部は木造になっており、中央の7本柱など、ほとんどがケヤキ材で作られている。

●ワイン資料館
山梨県東山梨郡勝沼町下岩崎
☎〇五五三―四四―一〇一一
JR中央本線塩山駅から車でメルシャン勝沼ワイナリーへ。ワイナリーで受付
開館時間＝九時～一六時(一二時半～一三時は休)
休館日＝一二月から六月の火曜日、年末年始
入館料＝無料

袁世凱は“中国を豚や狗のように見ている”と嘆いた
大隈首相以下はフランス料理で祝宴
「21ヵ条要求」の火事場泥棒!

▲「21ヵ条要求」は、その後も中国全土に日貨排斥をともなう激しい反日運動を巻き起こした。写真は、1919年、北京の天安門広場で。「写真タイムス」

第一次世界大戦に参戦してドイツを降伏させた日本は、“漁夫の利”を占めようと、山東省の権益譲渡、満州(中国東北部)・安奉鉄道の租借権延長などからなる「二一ヵ条の要求」を中国に突きつけた。あまりのことに粘り強い外交戦術を展開する中国に対して、武力を背景に強引に要求をのませたものの、日本は世界から孤立し、さらに中国民衆の心に激しい“反日”の刻印を刻みつけたのだった。

袁大総統に提示された“アメとムチ”式の強要

「貴国は、我々を罵言(ばげん)してやまず。ほとんど豚か狗(いぬ)の如く軽蔑するものの如(ごと)し」

大正四年一月一九日、中国の袁世凱(えんせいがい)(五五)大総統は、長年顧問をつとめている坂西利八郎陸軍大佐を北京にある総統府に招き、思わずそう嘆いた。

袁大総統は、日本とともに東洋の平和

▶「二一ヵ条要求」は、日本の対中国権益の拡大をねらった膨大なものだった。写真はそのうちの「南満州および東部内蒙古に関する条約」の部分。

▲大正4年5月7日、交渉中の両国代表。右手前から高尾書記長、日置公使、通訳の日本代表、左手前から曹外交次長、陸外交総長、通訳の中国代表。「写真通信」

のために尽くす決意に変わりはないと前置きしたうえで、〝日本は中国を豚や狗のように見ている〟と非難したのである。

前日の一月一八日、日本の日置益・駐中国公使（五三）は総統府を訪れ、とんでもない要求を中国政府に突きつけていた。袁大総統を激怒させたのは、五号二一ヵ条からなる膨大な要求書で、次のような内容だった。

第一号＝山東省の権益に関し、日独協定のいっさいを中国は承認する、など。

第二号＝旅順・大連と、満鉄（長春―旅順間とその支線など）・安奉鉄道（安東―奉天間）の租借期限をいずれも九九年ずつ延長。満州（中国東北部）南部や東部内蒙古における日本人の借地権、土地所有権などを承認する、など。

第三号＝日本が鉄鉱資源の調達先として投資を重ねてきた漢冶萍公司を日中の合弁とし、他国の資本参加を禁止する。

第四号＝中国沿岸の港湾・島嶼を他国に譲渡・貸与しない。

第五号＝中国政府の政治・財政・軍事の顧問に日本人を招く。地方の警察を日中合同にするか、または警察官庁に日本人を雇う。日本から兵器の供給を受けるか、日中合弁の兵器廠を設立する、など。

日本の思惑は、ドイツの中国利権を継承し、南満州の権益を拡大することだった。膠州湾・青島を占領していたドイツを攻略したのは日本なのだから、中国に返還する必要はないという理屈である。

しかし、列強国から〝鵜の目鷹の目〟の干渉を受けてきた中国にしても、これだけ多くの権益を要求されたことはなかった。日置公使は要求を突きつけた後、「誠意をもって交渉されるなら、日本↖

▶「21ヵ条要求」を提出した加藤高明外相。加藤の意図は、南満州、東蒙古での権益にあったが、軍部などから要求が続出した。毎日新聞社

は貴大総統がさらに一段昇られることを希望する（保障する）――」

と、独裁政権の基盤固めに奔走していた袁大総統に、帝制承認を約束。まさに、〝アメとムチ〟のやり方で承諾を強要し、さらに、こうもつけ加えた。

「くれぐれも交渉のことはご内密に……」

各大臣を祝宴に招待した大隈首相の〝ご機嫌ぶり〟

日置公使と陸徴祥外交総長（四三）との間で、二月二日に始まった交渉は難航し、結局、二五回にもおよんだ。

〝密室交渉〟を望む日本に対し、袁大総統は中国の領土保全を国策にする米国に情報をもらし、列強の干渉を期待して抵抗、交渉を引き延ばしたからである。

情報漏洩に気づいた加藤高明外相（五五）が、あわてて英・仏・露・米に「二一ヵ条」の第五号をはずした形で交渉内容を伝達。ところが、この〝五号隠し〟を中国が宣伝したため、欧米マスコミから「日本は欧州戦争を利用して、中国を〝第二の朝鮮〟にするつもりか」と、厳しく指摘されるありさまだった。

さらに日本は、三月中旬に満州・山東の駐屯軍を増強。事実上の〝臨戦態勢〟が整った五月には、在中邦人（中国全土で一二万一九五六人）が北京・上海などの駅や港に殺到している。

他方、中国内では、「二一ヵ条要求」に憤った将軍一九人が「死を以て之を斥けむ」という連名声明文を発表する事態が発生。日貨排斥をともなう反日運動も、武昌、漢口などの各地で巻き起こった。

〝討議スルガ承知セズ〟の態度を堅持する中国に対して、武力をちらつかせながらの恫喝と修正案の提示を繰り返す日本政府――当初から政財界、マスコミ（一部をのぞく）こぞって政府の強硬姿勢を支持していただけに、難航する交渉経過は、国内からも囂々の非難をあびた。

元老の山県有朋（七六）は加藤外相に、「ご苦労でも、外務大臣ご自身で北京へ乗りこみ、事件を片づけてはどうかな」

と語って、横槍を嫌う外相と衝突。後藤新平元逓信大臣（五八）にいたっては、「あたかも、〝縁日商人〟が幾度も値切らしてぎりぎり決着にいたり、客のなお買わざるや商人はその素見かされたるを憤り、これでも買わねば権力に訴えるぞと脅すとは拙劣無能の外交なり」（「読売新聞」大正四年五月九日）

と、〝縁日外交〟と皮肉った。

それだけに、回答期限の五月九日に中国がやっと最終譲歩案を受諾すると、大隈重信首相（七七）は各大臣を官邸に招待。東洋軒のコックに作らせた仏料理で祝宴を催すという〝ご機嫌ぶり〟だった。「スープ、コンソメに次いで、ヒレドブーフ、〝支那丸呑み〟と云う意味かどうかは知らぬが、ヒヨっ子の丸いのを蒸焼きにしてズラリ食卓へ並べられた」（「読売新聞」大正四年五月一〇日）という。

一方、中国の学生は最後通牒受諾の日、五月九日を、「国恥記念日」とした。

こうして妥結された「二一ヵ条要求」は、五月二五日に調印、六月八日に批准された。

この「二一ヵ条要求」について、『アジア史の真実』（南雲堂刊）の著者・中名生正昭氏は次のように語る。

「『二一ヵ条要求』は、日本との提携を重視した孫文をはじめ、日本に理解のある中国人層にさえ、日本も西欧の覇権主義と同じという不信感を与え、民衆の怒りは『五・四運動』などの反日運動の激化につながりました。この要求は、日中の深い禍根となり、両国関係を決定的な負の方向に導く転換点となったのです」

その後、日本は大陸出兵を繰り返しては中国人の心に〝国辱〟を刻みつけ、国権回復運動の高揚を誘発する。「二一ヵ条要求」は日中戦争へ発展し、さらに日本が世界を相手にする〝外交なき戦争〟へ暴走する起点となったのである。

▲袁世凱大総統。5月9日に「21ヵ条要求」を受諾する。

▲ニューヨークの新聞「ブルックリン・デーリー・イーグル」に掲載された風刺画を使用した、中国の排日ビラ。

▶中国で、日本商品をボイコットする動きは急速に広がっていった。写真は日貨排斥のビラ。

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

◀台湾で「西来庵事件」発生（7月6日）台南の巡査殺害を契機に抗日運動が徹底的な弾圧を受け、903人に死刑が言い渡された。写真は、逮捕された人々。

▶「三越店員愛護会」発足（8月30日）野崎社長の発案で、店員の福祉増進をめざした。大正10年には東京・駒沢にクラブハウス（写真）も建設された。

三越提供

▶満パイの福岡・独軍捕虜収容所（7月）青島占領後、約850人を収容。福岡収容所では、捕虜の海水浴や散歩を許可していた。この年、逃亡事件も発生。

▶シカゴ川で観光船が転覆（7月24日）ウェスタン・エレクトリック社の社員ら、行楽客2000人を乗せて離岸した直後、桟橋に向かって手を振る乗客が片側に寄りすぎたため横転。812人が溺死した。

▲空中戦に革命、ドイツが新型機関銃を開発（7月）プロペラの回転に同調して発射できる装置が出現し、命中率が格段に向上。英空軍は、以後半年間、非常な苦戦を強いられた。

「写真通信」

▲2皇子、京都見物（7月23日）皇太子の弟、第2皇子の淳宮（後の秩父宮）と、2年前に宮家を創立した第3皇子・高松宮の二人が、京都動物園で写真撮影や給餌などを楽しんだ。

AP／WWP

大正4年7月

1（木）●ニューヨークで電話料金値下げ、一通話五セント。

2（金）●西尾正左衛門、「亀の子束子」の特許取得。

3（土）●米国、ハイチに出兵、革命運動を制圧。
●仏、金輸出を禁止（豪・スイスも追随）。

4（日）●兵庫県の神岡銀行、横領行員捜索に懸賞金。

5（月）●中央畜産会設立。会頭に海軍大将・樺山資紀。

6（火）●台湾・タパニーで抗日蜂起（九〇三人に死刑判決、一三二人執行。西来庵事件）。

7（水）●推進器つきの潜水艦の玩具が流行、と新聞に。

8（木）●中元の贈答に書籍が流行、と新聞に。

9（金）●独領南西アフリカの独軍が、南ア連邦に降伏（南アは同地域を保護国化）。

10（土）●元老・山県有朋、首相・外相に日露同盟を主張、不調に終わり、大隈内閣を見限る。

11（日）●海軍、大型・中型駆逐艦計八隻の建造命令。

12（月）●大審院、華族財産差し押さえを禁じる新判例。

13（火）●不景気で質草に異変、衣類を入れつくし、蒲団を持ちこむものが多い、と新聞に。

14（水）●アラブの指導者・フサイン、英への協力を代償に、独立とフサインの王位承認を要請。

15（木）●米国で、大規模な独のスパイ網が発覚。

16（金）●米国戦艦三隻が、初めてパナマ運河を通過。
●蓄音器の需要が急増、大部分が国産と新聞に。
●霧島山が噴火、強震をともない住民混乱。

17（土）●大典記念に巻タバコ「八千代」発売、と新聞に。

18（日）●医薬品、一ヵ月で五割の暴騰も、と新聞に。

19（月）●ロシア国民に改革の気運、と新聞に。

20（火）●東京・大阪・神戸への肺結核療養所設置が決まる。結核患者の隔離に重点。

21（水）●陸軍、飛行機による夜間偵察実験を実施。

22（木）●落雷による停電で、東京の全電車が立ち往生。

23（金）●中国・広東方面で大洪水。死者一万、罹災者は数百万に達し、米作も全滅、と新聞に。

24（土）●シカゴで観光船が転覆、八一二人死亡。

25（日）●独潜水艦、アイルランド沖で米商船二隻撃沈。

26（月）●近代劇協、チェーホフの「桜の園」を初演。

27（火）●日米間無線通信業務開始。

28（水）●芸妓組合が「芸者の学校」を作る、と新聞に。諸芸から英会話まで教え、「模範的芸者」を養成。

29（木）●大浦兼武内相、選挙干渉に関する汚職の責任を追及され辞任（翌日、全閣僚が辞表提出）。

30（金）●岩手軽便鉄道が部分開通（現・釜石線）。

31（土）●暑熱の中、東京・浅草六区は人気上々、「扇風機完備」の劇場が特に好評、と新聞に。

証言・あの日この日

大宅壮一（14）

7月29日（木）〈今更ながら自分の成績が恥しい。ああ僕に唱歌が上手だったらこんなに敗北はすまいに……。今更唱歌の下手な事がうらめしい。否々これも皆僕の怠惰の罪だ。文・歌・句――自分は唯夢のように其等を憧憬していた。かぶれていた。／併し僕も今始めて夢から覚めた。さあ僕も機を逸せず品性の修養と勉学に努め、どんな事があっても二学期の末にはこの恥を雪がなければならない〉（大宅壮一『青春日記』）

茨木中学1年生の大宅少年は、負けん気の強い努力家の優等生だった。毎日、熱心に家業（醤油の配達と農作業）を手伝いながら勉強や作文にも励み、雑誌への投稿を繰り返していた。大宅少年は有名な投稿少年で、3年上級の川端康成もよく知っていた。しかしこの日、成績がクラス3番と知りショックを受ける。（山崎行太郎）

「写真タイムス」

▲新・横浜駅開業（8月15日）運輸交通合理化のため、高島町に新築。これにより、長距離列車と院線電車の駅がひとつになった。明治5年以来の歴史を誇る旧横浜駅は、桜木町駅と改名されることになった。

ROGER-VIOLLET／ユニフォト・プレス

◀ドイツ軍、ワルシャワ占領（8月7日）前年、東プロイセンのタンネンベルクでの戦いに大勝した勢いに乗り、ロシア領ポーランドの首都も奪取。対露軍の東部戦線を、さらに東へ進めた。写真は、首都に進軍する独軍。

「写真タイムス」

▲東京大相撲、米国巡業（8月7日）豪華客船「春洋丸」で、33人がサンフランシスコに向かった。写真は東京駅で。左から小常陸、西ノ海、梅ケ谷、出羽海（元横綱常陸山）。10月に帰国。

「写真タイムス」

◀「尼殺し」の凶悪犯逮捕（8月8日）小田原、東京、鎌倉で尼僧を殺害し金品を奪うなど、殺人6件と多数の強盗・強姦を認めた。写真左が福岡で逮捕され、警視庁に護送された犯人・大米竜雲。

呉市企画部海事博物館推進室提供

◀日本最強の戦艦「扶桑」、試運転開始（8月24日）基準排水量2万9330トン、36センチ砲12門。砲力は既成艦の5割増、という強力なものだった。大正8年までに同型艦4隻が勢ぞろいした。

大正4年8月

1（日）●中国、全国の銀貨を統一（袁世凱の肖像入り貨幣を発行）。

2（月）●和歌山県新宮町で大火、約五〇〇戸焼失。

3（火）●元老会議、大隈首相に留任を勧告（10日、主要閣僚を更迭して留任）。

4（水）●東京の井戸は大部分が飲用に不適と判明。

5（木）●独軍、英赤十字の看護婦・カベルを捕虜逃亡援助容疑で逮捕（10月12日、銃殺）。

6（金）●青島税関再開に関する日中取り決めに調印。

7（土）●独軍、ワルシャワを占領。

8（日）●尼僧殺しで手配中の大米竜雲を逮捕（殺人六件、強盗一三八件を重ねる）。

9（月）●米価安で女学生の帰省が減少、と新聞に。

10（火）●田熊常吉、「タクマ式ボイラ」の特許取得。

11（水）●小笠原諸島で金環食（曇天で観測できず）。

12（木）●美食避ければ一日一〇銭で十分な栄養がとれると、医学博士・額田豊、「一〇銭生活」提唱。

13（金）●東京・新吉原で、暴利をむさぼる楼主の商法に怒った娼妓が、集団で自主廃業をはかる。

14（土）●東京・新富座で、改造内閣弾劾大演説会。

15（日）●横浜駅新築落成、旧横浜駅を桜木町駅と改称。

16（月）●保険会社数社が、盗難保険創設を検討中、と新聞に。

17（火）●米国でリンチ事件。暴行容疑者の減刑に怒った市民が、容疑者を刑務所から奪い吊し首に。

18（水）●第一回全国中等学校優勝野球大会開催。

19（木）●独潜水艦、英客船「アラビック」を無警告撃沈。

20（金）●独、ロシア戦線で大勝、捕虜八万五〇〇〇人。

21（土）●伊、トルコに宣戦布告。

22（日）●日清汽船、新型船投入し、揚子江航路を充実。

23（月）●紙幣発行額は百円札二四〇〇万円、十円札一億六〇〇〇万円など、総額三億円余と判明。

24（火）●肺結核による死者は年間一〇万人、と新聞に。

25（水）●日本綿花、ハルビン・奉天に出張所開設。

26（木）●大阪砲兵工廠は、ロシアの注文で工員四万人が昼夜兼行の増産体制、と新聞に。

27（金）●東京市の埋め立て地処分、応札者たった一人。

28（土）●島村速雄・加藤友三郎、海軍大将に進級。
●京都・華族会館で、大典で「五節の舞」を舞う候補者の選考が行われる。

29（日）●陸軍機、所沢―高田間を往復。碓氷峠越えの山岳飛行に成功。

30（月）●紡績業界、第七次操短五ヵ月延長を決定。

31（火）●独・オーストリア、ポーランドを分割支配。

9〜10月

◀**タイ・カッブ、96盗塁(10月)**ヤンキースのベーブ・ルースと人気を二分するタイガースのスター選手が、また、大記録を樹立した。終身打率3割6分7厘、首位打者12回という打撃面だけでなく、闘志あふれる走塁も、彼の魅力のひとつだった。

ユニフォト・プレス

「写真タイムス」

▲**元老・井上馨が死去(9月1日)**みずから内閣を組織することはなかったが、政財界に大きな影響力を持ち、伊藤・山県とともに「明治の三元老」と言われた。79歳。写真は7日、日比谷公園の葬儀式場に向かう柩。約4キロも続く長い葬列となった。

◀**河口慧海(49)講演旅行(9月)**宿願の仏典の梵語原典邦訳をはたすため、2度目のチベット入り。3日、12年ぶりに帰国し、求めに応じて各地で貴重な体験を語った。

▼**野口英世、一時帰国(9月5日)**米・ロックフェラー医学研究所に勤務。梅毒スピロヘータの純粋培養成功など、世界的名声を土産に、15年ぶりに故国の土を踏んだ。

「嗜好」

▲**京城(ソウル)にキリンビアホール(9月11日)**朝鮮共進会会場の漢陽公園と、その南方の景勝地・水原華虹門楼上に開設(写真)。「機敏・懇切・美味・軽便」のサービスが好評を博した。

▶**早大新学長に天野為之(9月20日)**明治40年の学長創設以来その職にあった高田早苗が、大隈内閣の文相になったため交替した。写真は新旧学長迎送式で、中央左から高田、大隈、天野。

「写真タイムス」

「写真タイムス」

大正4年9月

1(水)●独、定期航路客船への無警告攻撃廃止を保証。
2(木)●梅ケ谷・西ノ海ら東京大相撲一行、米国の西海岸で好評のうちに巡業中、と新聞に。
3(金)●河口慧海が二度目のチベット旅行から帰国。
4(土)●二年続きの豊作で米価暴落、一石一二円台の新安値、と新聞に(以後値下がり続く)。
5(日)●スイスで国際社会主義者会議。レーニンらの左派が、帝国主義戦争の内乱への転化を主張。
6(月)●ブルガリア、独・オーストリアと同盟。
7(火)●浅草・本願寺に収容の独軍捕虜が、千葉県習志野に新設の収容所に移送される。
8(水)●大戦の影響で欧州への毛皮輸出不調と新聞に。
9(木)●台風が西日本を縦断、各地で被害甚大。東北各地でフェーン現象による大火相次ぐ。
10(金)●傾斜させた線路で貨車を仕分けするハンプ式を採用した東北線田端操車場、一部使用開始。
11(土)●東北帝国大学医科大学、授業開始。
12(日)●東京・青山練兵場で東京少年団が行軍演習。
13(月)●乃木大将三年祭を機に、遺言により絶家となっていた乃木伯爵家を再興。
14(火)●独・オーストリア・トルコ・ブルガリアが四国同盟を結成。
15(水)●内務・文部・軍部の青年団統一指導が始まる。
16(木)●米、ハイチを保護領とする(〜一九三四年)。
17(金)●独軍の鉄道敷設能力は一日一里、と新聞に。
18(土)●電話架設申し込みの停滞は三〇万件と新聞に。
19(日)●オーストラリアで禁酒熱が高まる、と新聞に。
20(月)●次年度予算要綱、漸増の五億五八〇〇万円。
21(火)●「中外商業新報」、景況をルポ、軍需・時計・皮革・製紙・製糖業などに好調が目立つ。
22(水)●東京砲兵工廠が数万人の大増員を行ったが、周辺地域の就職難は変わらず、と新聞に。
23(木)●閣議、ロンドン宣言参加を決定。英・仏・露に対し、独などと単独で講和しないと約束。
24(金)●独、物価統制のため価格審査所を設置。
25(土)●東京帝大教授・山極勝三郎ら、皮膚癌の人工発生に成功。
26(日)●帝劇洋劇部、ズッペの喜歌劇「ボッカチオ」上演。劇中歌「恋はやさしい野辺の花よ」が流行。
27(月)●横須賀海軍工廠創立五〇年記念式典。
28(火)●連合軍、西部戦線で大反撃の準備、と新聞に。
29(水)●警視庁、販売中の酒類全部を集め、メチルアルコールの混入を検査。
30(木)●東京市、養育園建設に三〇万円の寄金募る。

「写真タイムス」

▲**孫文、宋慶齢と結婚(10月25日)**袁世凱独裁政権の打倒をめざして第2革命を起こしたが敗れ、東京に亡命中の挙式だった。48歳の孫は再婚、26歳の年齢差があった。慶齢の妹・美齢は、後の蒋介石夫人である。

▲**日本初の自動車レース(10月16日)**東京・目黒競馬場で、90馬力の「スタッズ号」が時速80キロを記録。未知の猛スピードに観客が酔った。写真はタイヤ交換競争の様子。

「写真通信」

▶**選挙権要求し、ニューヨークで女性が大デモ(10月23日)**3万人が参加、警察の厳しい監視下に整然と行進した。第1次世界大戦は女性の社会進出を促進し、男女平等の気運を高めた。

「写真通信」

◀**新外相に石井菊次郎(10月13日)**第2次大隈内閣に請われ、明治45年来の駐仏大使から転任。49歳。写真はパリから帰国、家族とともに東京駅に到着した石井。翌月には日英仏露伊の単独不講和宣言をまとめた。

「写真通信」

▲**大嘗祭の準備着々(10月)**斎田から収穫した米が、京都御所の斎場で一粒ずつより分けられた。この米は、上賀茂神社で白酒・黒酒として醸造されるなど、新天皇による神饌親供の儀に用いられた。

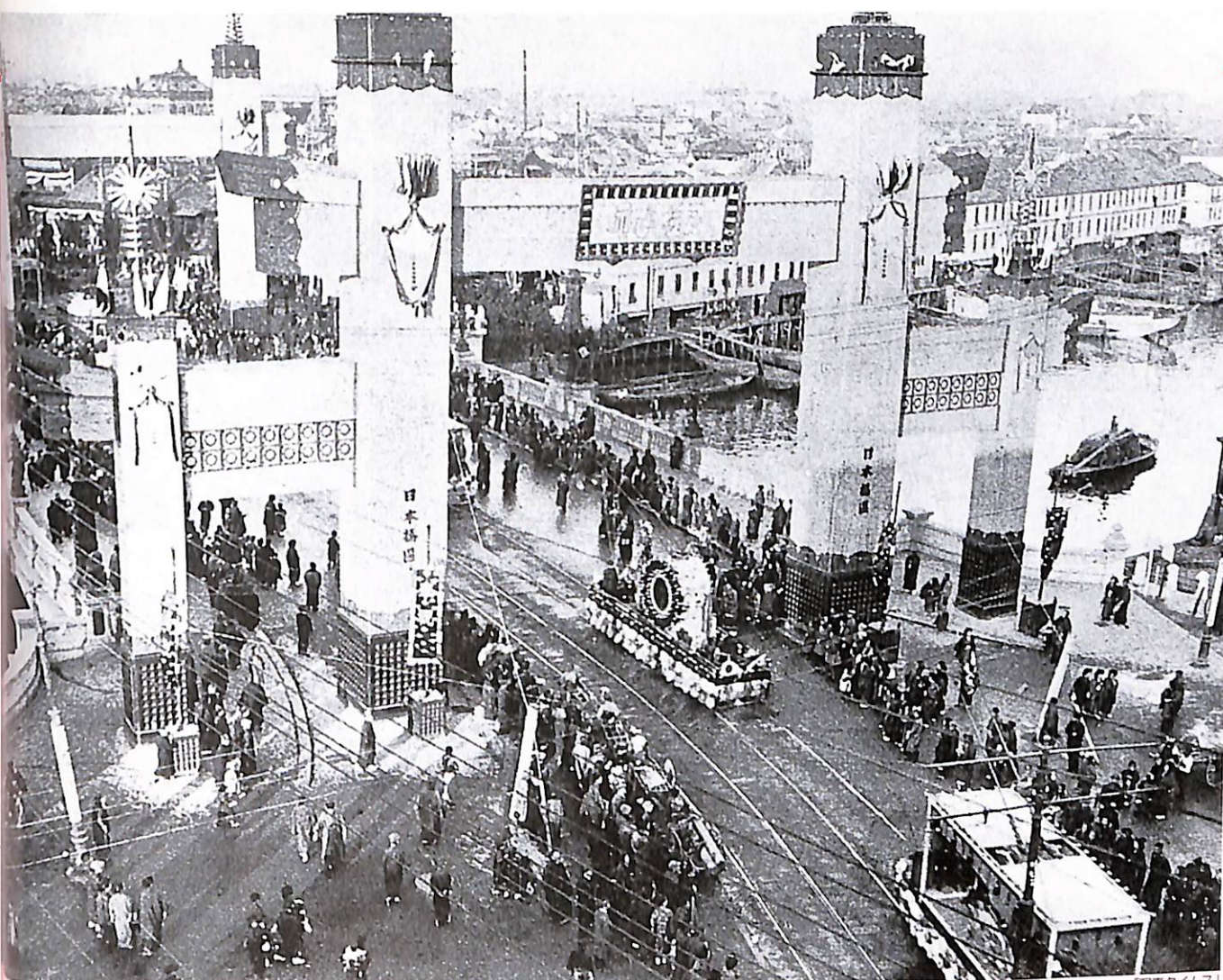
▶**大阪朝日新聞社上棟式(9月)**翌月には夕刊を発行、着々と勢力を拡張しつつあった。写真は式典にのぞむ経営陣。前列左・村山龍平、右・上野理一。二人は1年交替で社長をつとめた。

大正4年10月

1(金)●御大典記念京都博覧会、円山公園で開催。
2(土)●南洋を視察した一高旅行部、南洋展を開催。
3(日)●朝鮮で、鉄道敷設一〇〇〇マイル祝賀式。
●経営不振の帝劇が女優解雇・減俸など大改革。
4(月)●東京・本所で賭場の手入れ、三六人拘引。
5(火)●英仏連合軍、中立国・ギリシャのサロニカに強引に上陸。許可したギリシャ首相は辞任。
6(水)●農商務省、米価調節調査会を設置。
7(木)●中国地方から関東地方にかけて台風被害、鉄道・通信網に被害。
8(金)●阪神競馬で、警察が「勝馬投票」の代理投票を黙認。一人一票の制限が、事実上無制限に。
9(土)●島根師範学校で、校長の辞職要求し同盟休校。
10(日)●大阪朝日・大阪毎日・万朝報、夕刊を発行。朝刊八ページ、夕刊四ページで、月購読料五〇銭。
11(月)●仏の昆虫学者・ファーブル没(九一歳)。
12(火)●東京府、現地日本人の「発展状態」を視察する目的で、小学校長三人を初めて中国に派遣。
13(水)●ロンドン各紙が日本の出兵を要求、と新聞に。
14(木)●ブルガリア、セルビアに宣戦布告。
15(金)●米のモルガン商会、銀行団を組織し、英仏両国政府に総額五億ドルの融資を実施。
16(土)●農商務省、政府の市場介入を中心とする米価安定対策案を発表。
17(日)●菊花紋章を濫用した商品が氾濫、と新聞に。
18(月)●米価が突如暴騰。
●東京で保険金めあての放火、七三戸全半焼。
19(火)●米国など、メキシコのカランサ政権を承認。
20(水)●東京証券取引所に活気、出来高二〇万株で、記録を大幅に更新。
21(木)●米仏間で、初の大西洋横断無線電話実験成功。
22(金)●神奈川県警、独貿易商五人に退去命令。
23(土)●米海軍が前年比五割増の大建艦計画と新聞に。
24(日)●英、アラブの指導者・フサインに、トルコ戦参加の代償としてアラブ王国独立支持を約束。
25(月)●ロシアの禁酒令で在留邦人は大恐慌、銚子一本が七五銭につき、とても飲めない、と新聞に。
26(火)●ロシア人は旅行好きで、持ち出す外貨は年々五億ルーブル、日本の国家予算に匹敵、と新聞に。
27(水)●豪首相に労働党のヒューズが就任。
28(木)●英、強制徴兵制度導入を決定。
29(金)●外務次官に幣原喜重郎を任命。
30(土)●大分県・大湯鉄道が部分開通(現・久大線)。
31(日)●中国で帝制移行反対圧力強まる、と上海発。

▲大倉喜八郎（78）、男爵に（11月）天皇即位にあたり爵位を授けられた。日露戦争で武器調達に活躍したことが評価された。「恐懼、感激」した大倉は、国に美術館を献納。

岩手日報社

▲岩手軽便鉄道全通（11月28日）岩手県花巻—仙人峠（現・上郷）間の65キロを、宮澤賢治の「銀河鉄道」の発想の源となった列車が走った。写真は、早瀬川鉄橋上で。

「写真タイムス」

◀▲大正天皇、即位の大典（11月10日）京都御所で、皇祖に神器・皇位の継承を告げる大礼を挙行。写真上は東京・日本橋の奉祝門。その下を華やかな花電車が走った。新天皇は明治天皇の第3皇子、36歳。翌年から健康を害し、政務が滞りがちになった。写真下右は皇后・節子（31）。

▶ボースに国外退去命令（11月28日）インド革命の志士（29）に警視総監が通達。頭山満の紹介で、新宿中村屋の相馬愛蔵・黒光夫妻にかくまわれた。後列左から黒光、ボース、愛蔵、前列右から3人目・頭山。

大正4年11月

1（月）●米最高裁、外国人労働者を排除するアリゾナ州法は違憲と判決。
2（火）●東京駅に日本初のステーションホテル開業。
3（水）●米の品質は東京・埼玉・三重がよいと新聞に。
4（木）●生糸相場急騰、取引所開設以来の上げ幅記録。
5（金）●日本の正貨準備は約五億円、前年比五割増。
●大典のため、京都に逓信省臨時出張所を設置。
6（土）●鉄道院総裁、広軌への改築計画を閣議に提出。
7（日）●大典を控え、東京駅は京都への旅客で大混雑。
8（月）●戦艦「扶桑」が竣工。
9（火）●紡績業界で大資本への統合さかんと新聞に。
10（水）●京都御所で大正天皇の即位大礼を挙行。
●大典で長寿者に下賜金、一〇〇歳以上が全国に六二六人。
11（木）●中国の袁世凱、帝制移行延期を列国に通告。
12（金）●救世軍の山室軍平に藍綬章の授与が決まる。
13（土）●仏のジョッフル将軍、連合軍総司令官に就任。
14（日）●トーマス・マサリク、「チェコ独立のための行動委員会」を創設。
●京都御所で大嘗祭執行。
15（月）●後藤新平・伊東巳代治ら、大隈内閣打倒を協議。
16（火）●京都・二条離宮で二日間の大饗宴始まる。東京では芸妓行列、宮城周辺は見物で大混雑。
17（水）●北海道の松前などで、強風による漁船遭難相次ぐ。五〇人以上が行方不明。
18（木）●栃木県足尾鉱山で落盤事故、一四人生き埋め。
19（金）●露、軍事公債一〇億ルーブル発行、と新聞に。
20（土）●中国で各省区の「国体」投票。袁世凱の工作が成功し、全投票者が立憲君主制を支持。
21（日）●東京の衆議院選挙有権者は三万六二九〇人。
22（月）●株式暴騰、東京株式取引所は後場を休止。
●内国製薬設立。輸入途絶の薬品原料を生産。
23（火）●金融緩和・低金利の下で、「成金」はリスクを気にしつつ株式に走っている、と新聞に。
24（水）●奉祝行事への参列を拒否された岡山市の芸妓三〇〇人、市長出席の宴席を拒否、と新聞に。
25（木）●大礼による恩赦は四万五〇〇〇人、と新聞に。
26（金）●大阪亜鉛上島精錬所で土砂崩れ、七人死亡。
27（土）●旭硝子、色板ガラスの製造を開始。
28（日）●政府、英国の圧力で、亡命中のインドの革命家、ビハリ・ボースに国外退去命令。
29（月）●国民飛行会結成（会長・長岡外史）。
30（火）●株式がさらに暴騰、取り引き三日間停止（再開後さらに暴騰。大戦景気が訪れる）。

「写真通信」

▼東京ステーションホテル開業（11月2日）国際化の進展を背景に、鉄道院総裁・後藤新平、営業課長・木下淑夫らが実現した。経営は精養軒。東京駅の南半分を使用し、2・3階に72室を設置。質量とも首都最高の宿泊施設だった。

▲芸術座、ロシア公演（12月21日）大正3年に「復活」で大当たりをとった島村抱月（44）、松井須磨子（29）ら11人が、ウラジオストクに渡航。写真は、合同公演した劇団との記念撮影。2列目の左5人目が抱月、8人目が須磨子。

東京ステーションホテル提供

▲袁世凱、皇帝に（12月11日）中国参政院が、「国民投票」によって君主立憲が成立したと発表、ついに念願をはたした。写真は翌日、伝統の儀式を行う袁。

「太陽」

Ullstein／ユニフォト・プレス

▲アインシュタイン、一般相対性理論を完成（12月）ニュートン力学の根本的変更を迫った特殊相対性理論を、さらに拡張。36歳。ベルリンのカイザー・ウィルヘルム研究所員だった。

毎日新聞社

▲日本初の宙返り（12月11日）米の飛行家・ナイルスが、東京・青山練兵場で、宙返り、急横転、急降下などの妙技を披露、5万人もの観客をうならせた。

◀高峰譲吉、渋沢栄一訪米歓迎会開く（12月）ニューヨークのロータスクラブで盛大な饗宴、ロックフェラーらの米有力財界人も多数出席した。

大正4年12月

1（水）●陸軍、所沢に初の「航空隊」を設置。
2（木）●大正天皇第四皇子・澄宮崇仁親王（後の三笠宮）誕生。
3（金）●東京・靖国神社で、第一回在郷軍人大会開催。
4（土）●米・ジョージア州当局、「クー・クラックス・クラン騎士団」創立を認可。KKKが復活。
5（日）●上海で帝制反対の暴動が発生。
6（月）●連合国会議、英軍のダーダネルス海峡からの撤退を決定。トルコ、連合軍撃退に成功。
7（火）●大隈首相が施政方針演説。傍聴希望者が多く、議員は傍聴券獲得に大わらわ。
8（水）●浅草の露店でアセチレンガス爆発、少年死亡。
9（木）●大正天皇、上野公園に行幸し、祝賀を受ける。
10（金）●仏のロマン・ロランがノーベル文学賞を受賞。
11（土）●米の飛行家・ナイルス、日本初の宙返りを披露。
●北里柴三郎、北里研究所を開設。
12（日）●袁世凱、中国参政院による皇帝推戴を受諾。
13（月）●海軍、新たに第三艦隊を設置。
14（火）●独・オーストリア、露領ポーランド分割協定。
15（水）●日・英・露・仏・伊、袁世凱に帝制移行延期勧告。
16（木）●電話交換手は全国で二万人、一五歳から二〇歳が多く、平均月給一五円、と新聞に。
17（金）●メキシコ沖で座礁した軍艦「浅間」が帰港。
18（土）●本年度貿易は一億七五八五万円の出超で、前年度の入超から一転、空前の出超、と新聞に。
19（日）●独・ユンカース社、世界初の全金属製飛行機を完成し、初飛行に成功。
20（月）●庶民の間に貯金熱が高まっている、と新聞に。
21（火）●独潜水艦、日本商船「八阪丸」を地中海で撃沈。
22（水）●景気は急激に好転しているが、効果は末端に届いていない、と新聞に。
23（木）●日本の鉄の需要は年間約一二〇万トン、うち国内生産は三〇万トンにすぎない、と新聞に。
24（金）●緊縮財政下、値上げもままならぬ東京市電、予定線の建設打ち切りを検討。
25（土）●中国の蔡鍔ら、昆明で帝制反対・雲南独立を宣言、中国第三革命が始まる。
26（日）●毛皮人気復活、一般品は一頭分三〇円前後。
27（月）●南洋群島小学校規則公布。小学校開設を推進。
28（火）●東京・月島で火災、工場など五六戸全半焼。
29（水）●東京・滝野川などで、狂犬が三〇人を咬む。
30（木）●大阪製鉄所設立。
31（金）●年末現在、全国の自動車は一二四四台、人力車約一二万台、自転車約六二万台。

俄楽多市（がらくたいち）

流行語
飛行機ブームがここにも！

「着陸」。男女が待合（今のラブホテル）に泊まること。飛行機ブームはますますさかんになり、それにつれて飛行機に関する用語がいろんな形で使われた。その中で、学生、サラリーマンから花柳界にまで流行したのがこの言葉。ほかに女学生やカフェーの女給の間ではヒジ鉄砲のことを「突風」、しつこい男を「悪気流」とも言った。

「ワンダー写真」。大阪・京都で仕上げまで五分という写真が大流行。これが一組二枚で二五銭だったところから「ワンダー写真」と呼ばれ、なまって「ワンダース写真」となった。それらは若い男女が頬を寄せ合うなど遊び感覚で撮ったため、男女がふざけ合うことも、こう言うようになった。

「夕刊」。これも関西で流行した言葉で、他人の話の受け売りをすること、またはそういう人。一〇月、「大阪朝日」と「大阪毎日」が同時に夕刊を発行したが、朝刊と重複する記事も少なくなかった。それが転じたもの。

「銀ブラ」。街の雰囲気を楽しむため、用もなく銀座をブラつくことで、この頃から使われ始めた。

［写真タイムス］

▲5月8日、東京女高師の付属女学校で運動会が開催された。

教育
「詰め襟は発育に悪い」と背広を制服に採用

日本の学生は、中学から大学にいたるまで、制服はすべて詰め襟と決まっていたが、「詰め襟は発育に悪い」として、東京慈恵医学専門学校では六月一六日から制服を背広とすることを決めた。

これは十年一日のごとく国民衛生を口にしている高木兼寛校長の断によるもので、校長の多年の研究によると、詰め襟は胸を圧迫して呼吸器を害することはなはだしい。ことに小学生の場合、詰め襟で通学する生徒は、ほかの生徒より発育が悪いと言う。このため詰め襟追放の第一歩として、日本では珍しい背広を制服とすることになった。帽子も山高帽とし、頂天に大穴をあけることになっていたが、こちらは反対もあって断固決行するにはいたらず、背広だけ採用することになった。

（「時事新報」六月七日）

早稲田大学提供

◀三月に行われた第一二回総選挙では、大隈重信の吹きこんだ演説のレコード（写真）が三枚一組三円で売られ、話題に。

CM100年

新聞CM「太陽の輝く處!!　チウインガムの影なき處なし――リグレー・チウインガム」（ゼ・ホスピタル・サプライ会社）

世界的 煙草 代用品

WRIGLEY'S SPEARMINT CHEWING GUM

▲太陽の輝く處!!

米國リグレー會社製

チウインガム

一名噛み菓子（一包一金十錢）

の影なき處なし

▲世界的眞の煙草代用品出現するや共に活躍太陽と眞に其の光を爭ふ▲

□□□

長く噛んで居れば……美味で清涼の甘露いつまでも噛む程……滾々として盡きず喫煙後に用ふれば……中毒緩和に適切

紳士淑女の煙草代用
小兒青年の滋養菓子

食後に常用せらるれば
消化を助け
口中を清涼にし
濁を醫し歯牙を清浄ならしむ

外出の時の好伴侶
電車汽車の旅行
自動車
自轉車
テニス
ベースボール
運動會、遠足會
芝居、寄席
郊外散歩

▲市内及各地の食料品店、菓子店、洋酒店、藥店等にあり
▲類似品あり御買求めの節は「リグレー」の名稱に乞御注意

日本朝鮮總代理店
ゼ.ホスピタル.サプライ會社
（署路加藥品部）

▲タバコの代用品としてアメリカ製のチューインガムが発売され、三角帽子の小人が人気キャラクターになった。

◀下川凹天画「芋川椋三とブル」。下川が得意とするバンカラな主人公が人気だった。「東京パック」九月一日号掲載。

レジャー
「忠臣蔵」は目の敵 愛知県の上野介びいき

〔名古屋発〕愛知県幡豆郡横須賀村（現・吉良町）は戸数七〇〇～八〇〇の大きな村だが、「忠臣蔵」の悪役・吉良上野介の所領であったため、人々の上野介を崇拝することは今もって大したものである。この土地では「忠臣蔵」関係の興行はいっさいだめで、事情を知らない浪曲師や劇団が演じようものなら、なかばにして灯りが消え、浪曲師や役者は頭を殴られたり、水をかけられることもしばしばである。

（「風俗画報」二月五日号）

はやり歌

恋はやさしい野辺の花よ

訳詞 小林愛雄
作曲 ズッペ

恋はやさしい野辺の花よ
夏の陽のもとに朽ちぬ花よ
あつい思いを胸にこめて
疑いの霜を冬にもおかせぬ
わが心のただひとりよ

胸にまことの露がなけりゃ
恋はすぐしぼむ花のさだめ
あつい思いを胸にこめて
疑いの霜を冬にもおかせぬ
わが心のただひとりよ

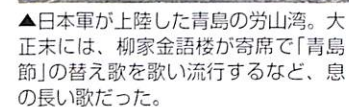
▲帝劇の「ボッカチオ」がヒット。三浦環の弟子でソプラノ歌手の原信子（写真）が歌う、この歌も大流行した。

青島節

作詞 添田唖蝉坊
後藤紫雲
整曲 添田唖蝉坊

青島よいとこと誰がいうた
うしろ禿山前は海
尾のない狐が住むそうな
僕は二三度だまされた
ナッチョラン

青島の山から見下ろして
あの海越ゆればわが日本
さぞや凱旋待つであろ
僕は青島の守備となる
ナッチョラン

命ささげておりながら
弾丸がドンと来りゃちょっとしゃがむ
卑怯でしゃがむじゃないけれど
青島とらずに死なりょうか
ナッチョラン

女優が牡丹の花ならば
洋妾なんぞはバラの花
後家は野菊で尼は蓮花
下女は南瓜の花かいな
ナッチョラン

▲日本軍が上陸した青島の労山湾。大正末には、柳家金語楼が寄席で「青島節」の替え歌を歌い流行するなど、息の長い歌だった。

三面記事
“困ったもの”は私生児の続出

［写真タイムス］

▲浅草観音が11年ぶりの開帳となり、多くの参詣人でにぎわった。写真は4月29日、浅草の芸妓一同が張り替えた大提灯の奉納風景。

この年初め、雑誌に“ものは付け集”が掲載され、世相をよく言い当てていると人気を呼んだ。

〔めっきり殖えたものは〕レストランと失職者と貸し自動車屋。

〔いっこうに殖えぬものは〕新しい女と日本の輸出額と外人相手のホテル。

〔ないようであるものは〕社会主義者と合乗りの人力車。

〔下火になったものは〕活動写真と清国からの留学生。

〔根気のいいものは〕陸軍の二個師団増設運動と探検の勧誘。

〔ものたりぬものは〕行政整理と帝劇の芝居と歴代の外務大臣。

〔使いにくいものは〕古手の軍人と百円紙幣。

〔困ったものは〕私生児の続出と銀行の取り付け。

（「生活」一月号）

社会
石のお金を土産に南の島からのご一行

新領土となる南洋諸島から二二人の観光団が来日、東京駅に到着した。一行はクサイエ島の首長・ジョンジグラ氏（四〇）以下、各島の首長と教誨師、村長さんなど。一行の中にはヨーロッパの土を踏み、英、仏、独、西（スペイン）などの言葉をたくみに操るものもあれば、数の観念さえわからないという人物もいる。ただ一様に、着なれぬ羽織袴を無理に着せられて窮屈そうである。

一行中の変わり者はチョミヤーレ君で、日本で一番偉い人に贈るのだと、はるばる南洋から直径四尺（約一・二メートル）もある石のお金を持ってきた。これは大隈重信伯に贈ることに決したという。

（「東京朝日新聞」八月二日）

海外
イギリスで流行！砲弾破片のアクセサリー

〔ロンドン発〕イギリスでは第一次大戦中、出征して負傷した兵士たちの間で、傷口から摘出した小銃の弾や砲弾の破片などを材料にして、時計の鎖や首飾りを作ることが流行した。

小銃の弾は頭部に金のキャップをつけ、これに茄子環でもつけると、なかなか面白い形になる。砲弾の破片の方は、極端に小さいものには両面からガラスのふたをつけ、大きいものは琥珀やルビーなどにやるように、直接、鎖や環をつける。これらがさりげない勲章として、また忘れられない記念の印として人気を集めたのである。

これは、もとはといえば、ドイツのバーデン大公爵夫人が考案したものだが、捕虜のアクセサリーを見たイギリス兵の間で広まったものであるという。

（「変態心理」大正六年一二月号）

▶六月、日光東照宮三百年祭が行われ、徳川家の一門が東照宮に参拝した。

「風俗画報」

▲この年、東京・本所の早川徳次が、画期的な“繰り出し鉛筆”を考案した。従来のものは軸がセルロイドで芯を押し出す螺旋金具はブリキだったが、早川は軸をニッケルに、さらにさまざまの改良を加えて新案特許を得る。後のシャープペンシルの誕生である。

この年の初もの
貸し衣装屋 東京・押上に開業

●**貸しガレージ** 五月創業の梁瀬商会（現・ヤナセ）が始める。

●**サーチライト（探照灯）** 大阪砲兵工廠で国産第一号が完成。

●**女性駅長** 南海電鉄の芦原駅に誕生、衣川春野、二二歳。ただし駅員は彼女一人。

●**学校のプール** 大阪・茨木中学に作られる。

●**映画のヌードシーン** フォックス映画「神々の娘」で、アーネスト・ケラーマンが披露。

世界の動き

アメリカ参戦の遠因となった第一次大戦の悲劇
独Uボートが奪った一一九八人の命
豪華客船「ルシタニア号」爆沈！

第一次世界大戦最中の一九一五年五月七日、イギリス・キュナード汽船会社所有の超豪華客船「ルシタニア号」（三万三九六トン）が、ドイツ潜水艦「U20」の放った魚雷の餌食となった。一一九八人もの犠牲者を出したこの大惨事は、当時中立国だったアメリカの参戦世論を高め、ドイツ敗戦への遠因となったのである。

▲1915年5月7日、独のUボートによって沈められた「ルシタニア号」の犠牲者が、次々に埋葬される。 HULTON GETTY/オリオン・プレス

魚雷二発が命中し一八分後には沈没

アメリカとイギリスを結ぶ定期船「ルシタニア号」が、一二五七人の乗客と七〇二人の船員を乗せ、ニューヨークからリバプールに向けて出航したのは、一九一五年五月一日のことである。

「ルシタニア号」は一九〇七年の建造。四本の巨大な煙突を持つ豪華客船であった。長さ約二三九メートル、幅約二七メートル、四個のタービンを有し、速力は二五ノット、総トン数三万三九六トン。船内の設備も豪華そのもの。船内には第一甲板から第四甲板を結ぶエレベーター、植物園や図書室なども備えられ、まるで「海に浮かぶホテル」そのものだった。乗客の国籍もさまざまで、イギリス人がほとんどだったが、アメリカ人一二八人、そのほかロシア人、フランス人なども含まれていた。

大惨事が起きたのは、六日後の五月七日午後三時一〇分。この豪華客船がアイルランド南岸を航行中、突如ドイツの潜水艦（Uボート）「U20」の来襲を受けたのだ。

水深三メートル、距離七〇〇メートルから放たれた二発の魚雷は、客船右舷の汽缶室に命中し、ボイラーの爆発をともなったその破壊力はすさまじかった。破損は外部より内部の方が激しく、海水は怒濤のように汽缶室に流れこみ、石炭庫のすべてを飲みつくしてしまった。

万が一のため、「ルシタニア号」には、一三二二人が分乗できる二二隻の救助艇と、一二八三人が収容できる二六隻の折り畳みボート、そのほかにも救命ブイなどが備えられていたが、爆発の衝撃があまりにも激しく、船は急速に傾斜し、救命作業は困難をきわめた。

船長のターナーは、魚雷が命中するやただちに船橋（ブリッジ）に駆け昇り、「船を沖に進ませてボートを降ろせ」と大声をはりあげるが、すでに機関の能力はゼロにひとしかった。魚雷命中と同時に、汽缶室の蒸気が一気に噴出して機関が停止、まったく航行能力を失っていたのである。「ルシタニア号」は左傾しながら、わずか一八分後に沈没した。海上に浮かんだ救助艇やボートで無事救助されたのは七〇〇人余で、一一九八人の命は海の藻屑と消えたのである。

対ドイツ海上封鎖で潜水艦の攻撃が激化

実は、「ルシタニア号」が爆沈した三ヵ月前の二月四日、ドイツ政府は「イギリスおよびアイルランド周辺海域はすべて交戦区域であり、敵国商船は破壊する」との無警告撃沈の宣言を行っていた。

イギリスの海軍省は、この宣言を受けて、六日後の二月一〇日には「湾の入り口および岬付近は特に危険なり、入港は黎明とすべし」、四月には「航海中、危険区域に入った場合は、Uボートの襲撃を防ぐため、ジグザグに船を進めるべし」と二度の訓令を出していた。

一方、五月一日に「ルシタニア号」がリバプールに向け出航するとのニュースが伝わると、在米ドイツ大使館は四月二二日付をもって、「いかなる国の国旗をひるがえす船でも、大西洋航行の船は撃沈される危険に遭遇するであろう」との広告を、「ニューヨーク・タイムズ」ほか米国の諸新聞に掲載した。

「ルシタニア号」の船長・ターナーはその広告を見ていたのだが、非戦闘員を乗せ、中立国・アメリカの港から出航する自分の船が危険に遭遇することはあるまいと楽観していたのである。

「ルシタニア号」爆沈のニュースは、世界中に大きな衝撃をもたらした。中立国・アメリカを是が非でも大戦に参加させたいイギリス外務省は、反ドイツ感情をあ

◀「ルシタニア号」。姉妹船「モーレタニア号」と並ぶ豪華客船だった。
「イリュストラシオン」

▶キュナード汽船のオフィス前に並べられた柩。
HULTON GETTY／オリオン・プレス

外から見たNIPPON

日本の「二一ヵ条要求」と孫文の批難

佐伯 修

第一次世界大戦に連合国側として参戦、中国領内に兵を進めて、山東省内にあったドイツの軍事基地や権益地を占領した日本は、この年の一月、勢いに乗じて袁世凱政権に「二一ヵ条要求」を突きつけた。

袁の政治的な宿敵であった中山・孫逸仙、すなわち孫文（一八六六～一九二五）は、北京の学生団体のリーダーに書簡を送り、日本の「要求」は「第五項に至っては我国を全く之が為に第二の朝鮮たらしむる城下の盟に等しきもの」で、それを承認しようとしている袁の下心は「間隙に乗じて帝号を僭称し、助を日本に求」めようとするものだとして、袁の打倒を呼びかけた（「日支交渉に関し北京の学生へ」、外務省調査部編『孫文全集』下巻より）。

一八九五年以来、清朝打倒のための武装蜂起とその失敗を繰り返し、日本を、革命のための活動拠点としてきた孫は、山田良政、宮崎滔天、犬養毅、頭山満ら、日本人同志から、物心両面で多大な支援を受けてきた。そしてついに、一九一一年、辛亥革命の成功により、孫は中華民国臨時大総統となるが、まもなく旧清国軍の実力者の袁に実権を奪われる。一三年、孫は袁に対する「第二革命」をくわだてたが失敗し、一時日本に亡命、同年、袁は正式に大総統に就任、北京政府に君臨して独裁を続ける。

さて、日本の「要求」を呑んだ袁は、孫の予測どおり、この年の末に、帝制復活と自身の皇帝即位を実行に移しかけた。これに対し、孫は「討袁宣言」を発し、蔡鍔らの武装蜂起による「第三革命」で、袁の企みは挫折し、翌一六年、袁は世を去る。

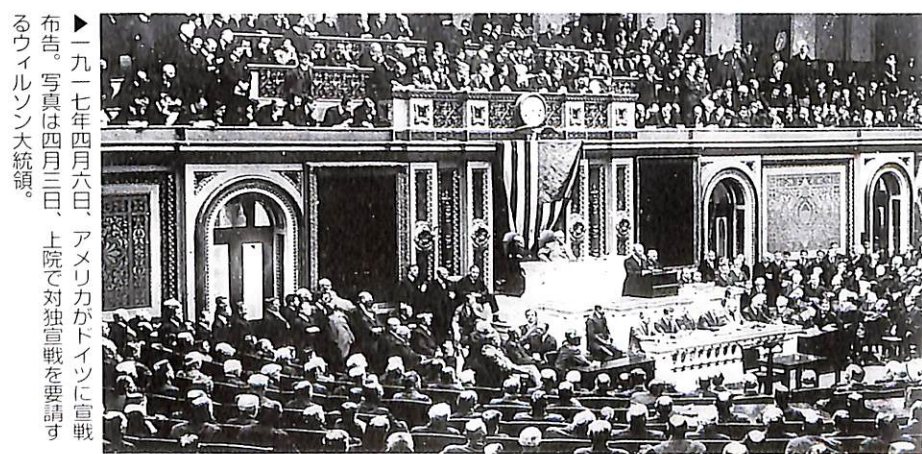
しかし、以上のような「二一ヵ条要求」以後の中国政界の混迷の遠因は、青島をはじめ、山東省のドイツ権益に対する日本の軍事行動にあった。この前年、一九一四年に、孫は日本の新聞社からの質問への回答の中で、日本が参戦当初は青島などをまもなく中国に返還すると言いながら、中国を説得して連合国側への参戦を実現させると、ひそかに青島などのドイツ権益の継承権を主張しだした不実を批難して、「日本が今日独逸の山東に於る利権を継承せるは即ち他年独逸の敗亡を継承するの前兆たるのみ」と言い、「東隣（日本）の志士」に「日本政府の猛省を促」し、「中国方面に於ける侵略」をやめさせるよう求めていたのである（「朝日新聞記者に答う」）。

なお、「総統」という称号のニュアンスは、日中間でやや異なり、「米国大統領」は、中国大陸でも台湾でも「美国総統」と表記する。

▲袁の死後も広東政府を率い北京政府と対峙した。

おるため、「ルシタニア号」撃沈を祝うドイツの記念メダルを偽造し、アメリカでばらまくという〝謀略〟工作を行った。また、アメリカのウィルソン大統領（五八）のもとへは、最も強硬な対独行動を要求する電報が全米各地から寄せられるなど、アメリカの反ドイツ感情は急速に高まっていった。

さらに、この年八月一九日には、またもやイギリスの大型客船「アラビック号」（一万六〇〇㌧）がニューヨークに向かう途中のアイルランド南方沖でUボートによって撃沈され、四人のアメリカ人が犠牲となった。ただちに、アメリカ政府は、駐独大使を通してドイツ側の謝罪と船舶への攻撃中止の誓約を求めた。アメリカ参戦への危機感を抱いたドイツ政府は、アメリカを中立国にとどめておくため、九月一日、イギリス近海での無制限潜水艦戦を一時中止する。

しかしUボートは、一九一五年中に合計七五万㌧のイギリス商船を海に沈めていた。水上艦からの砲撃で撃沈されたものを含めると、一九一四年の開戦から一五年末までのイギリス商船の損害は一一〇万㌧と甚大なものとなっていた。ウィルソン大統領は、「アラビック号」が撃沈された時点では参戦の意思を示さず、翌一九一六年、「国民を戦争から救った」として再選されるが、参戦準備はおこたらなかった。そして一九一七年一月三一日、ドイツが無制限潜水艦戦の再開を通告すると、アメリカは同年二月三日にドイツとの国交を断絶、四月六日には正式にドイツに宣戦布告したのである。

ドイツのUボートによる商船撃沈は、なぜこんなにも激しかったのか。

「その原因は、一九一四年一〇月に始まった、イギリスのドイツに対する海上封鎖にあります。特に北欧からの食料輸入は半年間に半減し、ドイツの食料事情に致命的な打撃を与えていたのです。ドイツがイギリスを締めあげる手段は、潜水艦によるイギリス逆封鎖しかなかったのです」

こう語るのは、海戦史研究家の秋山信雄氏である。

そしてUボートは、一九一四年から一八年の間に世界の船舶五七〇八隻を撃沈し、非戦闘員の商船乗組員と乗客一万三三三人の生命を奪ったのである。

▲一九一七年四月六日、アメリカがドイツに宣戦布告。写真は四月三日、上院で対独宣戦を要請するウィルソン大統領。

ROGER-VIOLLET　ユニフォト・プレス

往きて還らぬ

▲9月1日　井上馨(79)
明治から大正期の政治家。維新後は新政府参与、大蔵大輔などをつとめ、中央財政を確立。外相、内相、蔵相を歴任。

▲4月27日　A・N・スクリャービン(43)
露の作曲家、元モスクワ音楽院教授。ピアニストとしても有名。作品にピアノ・ソナタ10曲、交響曲3曲など。

▲2月8日　長塚節(35)
明治期の歌人、小説家。歌誌「馬酔木」創刊、同人の中心として活躍。代表作に小説『土』、歌集『鍼の如く』など。

▲9月4日　五姓田義松(60)
洋画家。明治10年の内国勧業博で「阿倍川富士図」が鳳紋賞受賞。13年渡仏、14～16年パリのサロンに連続入選。

▲5月3日　安達つま(43)
〝洗髪おつま〟と言われた新橋の売れっ子芸者。力士、俳優との艶話のほか花柳界の舞台にも出演し話題に。

▲2月20日　岩村通俊(74)
明治期の官僚。開拓大判官として北海道開発に尽力。薄野の歓楽街も作った。初代北海道庁長官、農商務相を歴任。

▲1月5日　永倉新八(75)
維新時の新選組の幹部。池田屋騒動では斬りこみの一員として活躍。維新後は剣術指南をつとめ、後、小樽に居住。

▶10月11日　ジャン・アンリ・ファーブル(91)
仏の昆虫学者。『昆虫記』（全一〇巻、一八七九～一九〇七年）を出版。今も世界各国で広く愛読されている。

毎日新聞社

▲3月2日　土肥春曙(45)
明治から大正期の新劇俳優で、坪内逍遙やシェークスピアの作品などで高い評価を得る。大正2年無名会創設。

毎日新聞社

▲1月12日　有坂成章(62)
明治期の軍事技術者で、銃砲設計家。日露戦争時、全陸軍に配備された31年式連射砲（有坂砲）などを設計。

毎日新聞社

▲11月28日　小林清親(68)
明治期の版画家で「団団珍聞」などの新聞に〝清親ポンチ〟を描く。東京から江戸への〝近代化の歩み〟を表現。

▲8月20日　P・エールリヒ(61)
独の細菌学者、化学者。免疫研究の業績で、1908年ノーベル生理・医学賞受賞。梅毒治療剤・サルバルサンも発見。

◀1月18日　A・M・ステッセル(67)
露の軍人。日露戦争で旅順要塞守備司令官となり、一九〇五年降伏。帰国後、死刑を宣告されたが釈放。写真右。

ミニ事典

1915年のキーワード

吉田司家

横綱免許の権限を持ち、代々免許状を付与してきた相撲家元。寛政元年(一七八九)、谷風・小野川に「横綱」を与えたのが最初だった。以降、この権利を独占。この年一月、鳳谷五郎の第二四代横綱昇進に異議を申し立て、二月一五日になってやっと免許するという事件も起こした。昭和二六年、吉田司家は相撲協会に権利を委譲、協会が推挙し横綱審議委員会が審議する現体制になった。

「写真タイムス」

▶横綱内定にニコニコ顔の鳳谷五郎。「お情け」で入門した軽量横綱だった。

公立学校職員分限令

公立の専門学校、師範学校、中学校、高等女学校および実業学校の職員の身分を保証する法律。ほかの勅令で規定されている小学校教員、文官をのぞく。一月二七日公布。従来、休職給の規定しかなかった教員に奏任文官、判任文官と同等の待遇を与え、意に反する格下げ・減給を禁じ、免職・休職の事由を規定した。

日貨排斥運動

日本の進出以来、中国で頻発した日本商品ボイコット運動。製品の不買だけでなく運搬の拒否、金融機関の排除などを含む。日本が対中権益拡大を強行する「二一ヵ条要求」を中国に突きつけたこの年、民族独立のナショナリズムと一体化し、組織的な運動が全国規模で展開された。上海の学生らは二月二五日、国民対日同志会を結成。その後、全土の中小商店・労働者・華僑にまでその輪を広げ、抵抗し続けた。

ブライアン・ノート

日本が中国に提出した「二一ヵ条要求」に対して、三月一六日、米国政府が駐米大使・珍田捨巳に手渡した覚書。ブライアンは国務長官の名。中国の政治的独立・領土保全、米国の権益、各国の機会均等などを侵さなければ「要求」を大筋で認め、日本の中国での優越性を尊重するという内容だった。これにより、日本は中国に対し、より強い態度でのぞむことになった。

停車場演説

三月二五日の総選挙に向けて、全国遊説に乗り出した大隈重信が、停車時間を利用して車窓や展望車上から行った演説。演説をレコードに吹きこんで売ったり、与党候補者に配った蓄音器演説とともに、世間をあっと言わせた。こうした新奇で派手な選挙運動が功を奏し、立憲同志会は政友会をおさえて大躍進、与党が過半数を制した。しかし、その裏で選挙干渉、買収が横行、強引な勝利に国民の批判が起こった。

「写真タイムス」

▲神奈川県の国府津駅で演説する大隈首相。熱が入って列車が遅れたこともあった。

大浦内相事件

第二次大隈内閣の閣僚・大浦兼武が、前年の農商務相時代に、二個師団増設案を議会に通過させようとして行った汚職事件。大浦は多数党の野党・政友会代議士三人に贈賄、彼らの一人が一四人に贈賄した。この年三月の総選挙で内相として辣腕を振るった大浦は、選挙違反・収賄罪容疑で告発されたが、その調査の過程で前年の汚職が明らかになったのである。これにより政界は混乱、大隈内閣は八月に改造して再出発したが、いっきょに人気を失った。

▲大浦兼武。大臣は辞めたが、汚職問題は起訴猶予で決着。

無尽業法

無尽講が営業化した庶民金融機関、無尽会社を整理・取り締まるために制定された法律。六月二一日公布、一一月一日施行。無尽講は頼母子講とも言い、互いの掛け金を融通し合う目的で作られた金融組織。中世以降広く利用された。無尽会社は大正初期に数百社を数え、詐欺まがいのもの、射倖性の強いものも多かった。法制定により翌年には一三六社に減少、昭和二六年の相互銀行法制定で相互銀行に転換した。

肺結核療養所

前年三月に公布された「肺結核療養所設置及び国庫補助に関する法律」に基づいて、東京・大阪・神戸に設立された国立療養所。七月二〇日、大浦内務大臣が告示。治療より感染源隔離に重点をおき、重症者を多数収容したため、死亡率が高かった。

癌の人工発生

癌腫を人工的に作り出すこと。東京帝大医学部教授・山極勝三郎とその助手・市川厚一が、世界で初めて成功、九月二五日、東京医学会特別例会で報告した。山極は、癌の発生原因として師のドイツ人・フィルヒョーが立てた「刺激説」を確信、ウサギの耳の内側にコールタールを塗り続け、ついに癌を発生させた。これにより、パイプをくわえる人と口唇癌、強いタバコを吸う人と喉頭癌など、慢性的刺激が癌と因果関係があることが明らかになった。

フサイン—マクマホン協定

エジプト駐在英高等弁務官・マクマホンが、メッカの太守・フサインへの書簡で行った約束。第一次大戦後に、オスマン帝国領へのアラブ人の独立国家建設を実現するとした。英国の企図は、オスマン帝国領内のアラブ人勢力を援助し、帝国の内部崩壊を促進しようというところにあった。しかし、すでにパレスチナへのユダヤ人国家建設を約束しているなどの矛盾があり、後に中東問題が複雑化する原因を作った。

大戦景気

第一次大戦の影響で生じた好況。長く続いていた不況が一一月から上昇傾向になり、一二月四日、東京株式市場が暴騰、大戦景気の始まりとなった。重化学工業製品の輸入がストップした日本は、自前の製品を生み出すしかなく、これが結果的に高い利潤をもたらした。また生糸、綿製品などの対米輸出が急増、雇用が拡大し、消費が急増した。しかし大戦景気はインフレを呼んだだけでなく、企業間の競争を激化させ、財閥系企業による寡占化の契機となった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1915

CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室(茂村巨利)＋渡邊裕之
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーションハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　菊地美優貴　小松邦宏　張替政展
藤森雅弘　結城順一　吉田忠正

●写真協力
楠田守　但馬一憲　中山富子　平山亮
朝日新聞社　「イリュストラシオン」　岩手日報社　U-1ster
in AP　オリオン・プレス　CORBIS BETTMANN
古文書複製社　G・I・P・Tokyo　デジタルハウス　HUL
TONGETTY　PPS　Popperfoto　毎日新聞社
ユニフォト・プレス　ROGER VIOLLET　WWP
日本コロムビア　松竹　東京ステーションホテル　日本ビクター
三越　Rolls Royce Ltd
Imperial War Museum　大宅壮一文庫　お札と切手の博物館　川崎市市民ミュージアム　北里研究所　呉市企画部海事博物館推進室　国立国会図書館　THE KOBAL COLLEC
TION　三康図書館　たばこと塩の博物館　中国文化省　東京大学法学部附属明治新聞雑誌文庫　中山晋平記念館　日仏会館図書室
日本近代文学館　浜松市楽器博物館　文京区立鷗外記念本郷図書館
メトロポリタン美術館　UCLA　早稲田大学

第2巻第32号 通巻75号
編集人 近藤達士
郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円
雑誌 23711-9/1
Ⓛ-2001/1/1
T1123711090562

印刷　凸版印刷株式会社　製本　大村製本株式会社